

番號渡航允許之證票
自何港至何港

貨物 噸數	渡航						自何港	至何港	許之證票	族	籍	氏	名	年	齡

一 表面記名ノ人員運賃及荷物運送費ハ渡航人ヲ乘船セシメタル汽船會社ヨリ農商務省へ受取方申出ヘシ此證票引換ニ拂渡スヘシ

但函館港ヨリ更ニ乘船ノ分ハ函館縣ニ於テ拂渡スヘシ

一 此證票ハ三菱會社共同運輸會社運漕社船ノ内各自ノ乘船スヘキ船ノ扱所へ持參シ乘船切符ト引換乘船スヘシ

一 此證票ヲ以テ乘船切符ト引換タル後ハ總テ汽船會社ノ規則ニ從フヘシ若シ引換タル後乘船時間ニ乘後レ或ハ自己ノ事故ニ因リ乘船ヲ止メ會社制限時間内ニ渡航票ト引換戻シノ事ヲナスノ場合ニハ會社ノ規則ニ依リ辨償スヘキ金額ハ本人ヨリ辨償セシムヘシ

一 此證票ハ表面記名人ニ限リ効アルモノトス

一 此證票ヲ失ヒシトキハ表面ノ番號ヲ記シ速ニ農商務省へ届出ヘシ

右ノ條件遵守スヘキ事

農商務省
主任官姓名印

明治 年 月 日

○第拾壹號

五月九日

大藏卿連名

今般福島縣下須賀川第百八國立銀行領店申付候ニ付其銀行紙幣自今通用不相成候因
テ右紙幣引換方ノ儀ハ總テ大藏省ニ於テ負擔ニ國立銀行及大藏省爲換方ヲシテ取扱
ハセ候條右紙幣所持主ハ來ル明治十七年十一月三十日限リ國立銀行又ハ爲換方ハ申
出引換ヲ請フヘシ若シ期限ヲ過キ申出ル者ハ如何ナル事情アルモ一切引換サルヘシ
右布達候事

○第拾貳號

五月十四日

農商務卿連名

本年二月第五號ヲ以テ及布達候製茶共進會規則別冊ノ通之ヲ定ム
右布達候事

製茶共進會規則

第一章 總則

第一條

兵庫縣下神戸港ニ於テ第二回ノ製茶共進會開設ノ主意ハ去ル明治十二年橫濱ニ於テ

第一回製茶共進會以來茶業上ニ現ハレタル改良進歩ノ度ヲ比較シテ之カ優劣ヲ定メ
倍其業ヲ擴張セシムルニアル

第二條

本會開設ノ日限ハ本年九月一日ヨリ十月廿日マテ五十日間トス

但本會事務所ハ八月一日ヨリ開キ其場所ハ遲テ農商務卿ヨリ告示スヘシ

第三條

本會ノ出品ハ内國人ニシテ茶園三段歩以上ヲ栽培製造スルモノ若シハ他人ノ生葉
ヲ買入レテ千五百斤以上ヲ製スルモノニアラサレハ出品ヲ許サス

但茶業ニ就キ著ルニキ功勞發明等アルモノハ以上ノ反別及ヒ製額ニ充タスト雖モ
其理由ヲ詳記シ出品スルヲ得

第四條

本年ノ製茶ニアラサレハ出品ヲ許サス

但參考ノ爲メ前年ノ製品ヲ添附スルハ妨ケナシト雖モ審査ヲ加ヘス

第五條

本會ニ供スル爲メ故ラニ精良ノ品ヲ製造シテ出品スルヲ得ス若シ詐偽ノ所爲アルモ
ノハ其出品ヲ斥ケ陳列ヲ許サス

但出品ハ一品毎ニ其年ノ製額ヲ申告書ニ記載スルハ勿論時宜ニヨリ其賣上證書ヲ
出サシムルコトアルヘシ

第六條

會社ノ名義ヲ以テ出品スルモノハ別ニ己ノ製品ヲ出スヲ許サス

但金員ノミヲ以テ入社スルモノハ此限コラス

第七條

各自ノ發明ニ係ル器械ノ雛形圖式及著述書等ヲ出品スルモノハ別ニ參考室ヲ設ケ陳
列セシムヘシ

第八條

褒賞ハ本會ノ目的ニ適セル優等ノ出品若シクハ茶業ニ就キ發明功勞ノ著ルモノ

ニ與リ又其功勞アル故人ハ之ヲ追賞スルコトアルヘシ

但出品主ニ非ルモ製菓職工ニテ特ニ其技ニ熟達スル者及ヒ出品主ヲ助ケテ特殊
ノ功勞アルモノ又該商業上有功ノモノニハ相當ノ賞ヲ與フルコトアルヘシ

第九條

褒賞等級左ノ如シ

特別名譽賞

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

五等賞

六等賞

七等賞

第十條

本會ハ産人又ハ一社ニテ四五品ヲ出スモ妨ケナシト雖モ褒賞ハ其中ノ高等品ニ限リテ附與スヘシ

第十一條

出品者ハ出品目錄登通申書書式通テ作り所轄郡區役所ノ與書ヲ受ケ管轄廳ニ差出シ管轄廳ニ於テハ豫テ委員ヲ設ケ之ヲ調査シ誤謬ナキヲ確認セシ後出品目錄ハ本年七月三十一日迄ニ兵庫縣廳ニ郵送シ申告書ハ八月十五日迄ニ直ニ本會事務所ニ差出スヘシ

但本條ノ期限ヲ過シルトキハ出品スルヲ除サス

第十二條

出品者ハ勿論職工及ヒ商人ト雖モ平常茶業ニ功勞アリテ其地方ノ模範トナルヘキモノハ地方廳ニ於テ詳細其履歷ヲ取調親展書ヲ以テ申告書ト共ニ本會事務所ニ報告スヘシ

第十三條

出品往返ノ運送費出品主ノ旅費及ヒ飾附人夫等ノ費用ハ總テ自辨タルヘク場内整頓ニ要スル陳列臺其他一切ノ費用ハ官費タルヘシ

第十四條

出品ハ本會委員ニ於テ可成保護スヘシト雖モ盜火難及ヒ天災等ノ如キ期ス可ラサル場合ヨリ生スル損害ハ總テ出品主ノ損失タルヘシ

第十五條

出品ハ一種ニ就キ壹斤乃至貳斤ヲ限リトス若シ参考ノ爲メ各自ノ商票ヲ表記シ箱詰ノモノ出品スルハ妨ナシト雖モ五拾斤ヲ超過スヘカラス現品ハ八月五日ヨリ全十五日迄ニ兵庫縣下神戸港本會出品委託引受所ニ向ケ送致スヘシ

但審査用トシテ同品各半斤ツノブリツキ錫紙ハ箱等充分損害ヲ防クニ足ルヘキ器ニ入レ必ス添送スヘシ

第十六條

場内取締ハ本會役員ノ負擔スル處ナルヲ以テ出品人其他場内ニ入ルモノハ總テ同員ノ指揮ニ違背スルヲ得ス

第十七條

出品主ノ都合ニヨリ代理人ヲ出シ又ハ甲乙聯合シテ總代人ヲ出スモ妨ケナシト雖モ可成的該品ノ解説ヲナシ得ルモノヲ撰フヘシ

第十八條

會中ニ於テ出品賣買ノ約定ヲナスハ勝手タルヘシ

第十九條

褒賞授與式ハ十月七日ヲ以テ施行スヘシ

第二十條

褒賞授與式後ニ於テ製茶集談會ヲ開クヘシ

但期日會場及會議手續問題等ハ迨テ農商務卿ヨリ告示スヘシ

第二十一條

審査長審査員ハ總テ官撰タルヘシ

但審査員ハ都合ニヨリ出品人ヨリ選舉スルコトアルヘシ

第二十二條

審査員ハ其出品ヲ査閱シ每品其優劣ヲ審クシ之カ附點表ヲ作り審査長ハ褒賞ノ等級ヲ擬按シ之ヲ本會幹事ニ出シ幹事ハ之ヲ議判シテ農商務卿ノ裁定ヲ乞フヘシ

第二十三條

審査ハ掛員ノ考按多數ニ由テ其優劣ヲ決スルヲ例トス若シ其考按同數ナルトハ審査長之ヲ決スヘシ又既ニ多數ニ決シタルモノト雖モ幹事其當ヲ得スト認ムルトハ或ハ之ヲ再議セシムルコトアルヘシ

第二十四條

審査員ニ撰ハシタルモノノ出品ハ本以其審査ニ與カルコトヲ得ス

第二章 會場ノ部

第二十五條

開會中ハ公衆ノ來觀ヲ許ス

但會場ノ都合ニヨリ觀者ノ人員ヲ限リ又ハ臨時來觀ヲ止ムルコトアルヘシ

第二十六條

觀者場内ニ入ルトキハ一人毎ニ入場券一枚ヲ持參シ門衛ニ交付スヘシ

但五歳未満ノ小兒ハ入場券ヲ要セス

第二十七條

入場券ハ一枚金壹圓ト定メ場外適宜ノ場ニ於テ賣渡サシムヘシ

第二十八條

出品主又ハ代理人ヘハ別ニ門鑑一枚ヲ渡シ置クヲ以テ入場ノ際之ヲ門衛ニ示スヘシ

但他人ニ貸與スルヲ許サス若シ紛失スルトキハ其事由ヲ詳記シテ更ニ受取方申出

ヘシ

第二十九條

入場券ヲ持參スト雖モ狂人醉客ノ如キ他ノ妨害者ト認ムルトキハ入場ヲ許サス或ハ

會場中ニ立去ラシムヘシ

第三十條

手荷物等ヲ提携シ又ハ獸類ヲ牽キテ入場スルヲ許サス

第三十一條

看護人ノ承諾ヲ受ケズニテ遊ニ物品ニ觸ル、ヲ許サス

第三十二條

場内ニ於テ吸煙ヲ禁ス

第三十三條

列品賣買約定ヲ爲スモノハ適宜ノ証書ヲ取換セ約定濟ノ印ヲ付ケ置キ閉場後ニ非サ
シハ他ニ搬出スルヲ許サス

第三章 出品者心得

第三十四條

出品ノ遞送ハ左ノ手續キニ準據スヘシ

出品者心得

第一 出品ハ途中損傷ノ憂ナキヤウ堅固ニ荷造ヲナシ左ノ送狀ヲ添へ本會出品
委託引受所ニ向ケテ郵送シ出品主又ハ代理人等出頭ノ上之ニ受取リ陳列方
ナスヘシ

但出品運送賃ハ到着迄ノ分悉皆仕拂濟ノ上輸送スヘシ決テ先拂等ノ取計
ナスヘカラス

送り狀ノ事

一何茶

何斤

附審査用

壹箱

右ハ共進會荷物書面ノ通り差送り候條到着ノ砌御預リ置拙者(或ハ代理人何
誰)申出次第御渡シ有之度候也

但神戸港共進會事務所迄ノ運賃拂濟

◎代理人印影

本人出張セズ代理人ヨリ荷物渡シ方ヲ該會へ申立タルト
キ照會ノ爲メ右ノ書式ノ通り代理人ノ印ヲ捺シ置クヘシ

何府下何國何郡何町何番地

年月日

何ノ誰印

神戸港

製茶共進會委託引受所御中

第二 出品主又ハ其代理人品物ヲ携帶シテ出張スルモノハ本會事務所へ申立
テ其指揮ヲ受ケ陳列方ヲナスヘシ

第三 出品者便利ノ爲メ本會事務所内ニ出品委託引受所ヲ設ケ都テ出品ノ取
扱ヲナサシムヘシ

但出品委託引受所ハ退テ本會ヨリ報告スヘシ

第三十五條

委託引受所ニ於テ出品到着スレハ包裝ノ儘預リ置キ出品人或ハ代理人申出次第之ヲ
引渡スヘシ若シ運送中ニ損傷ノ兆外包ノ上ニ願ハレタルモノハ運送受負者へ戻シ置
クヘシト雖モ時宜ニヨリ荷造ヲ開放シ物品ノ保護ヲナサシムルコトアルヘシ

第三十六條

出品ノ陳列ヲナスハ出品人或ハ代理人ノ擔當タルヘキニ付通ク其開場五六日前迄ニ
神戸ニ參着シ該會委員ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第三十七條

出品ノ陳列ニ用フヘキ棚臺及容器ハ本會ニ於テ之ヲ設ケ置クヘシ尤出品人自費ヲ以
テ別ニ飾機等ヲ裝置セントスルモ其旨ヲ前以テ本會事務所ニ申出裝置スヘキ場
所ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條

陳列品ハ本會ニ於テ一定ノ票札ヲ製シ其品名及出品人ノ國所姓名ヲ記スヘシ出品
主ノ商票（繪模樣家名）ナドノ印（原價賣品非賣品等ノ札ハ各自ニ製造添附スヘシ）

第三十九條

出品ニ付従前内外博覽會又ハ共進會及ヒ他ノ事由ニテ褒賞ヲ得タルモノハ褒狀ノ寫
シ或ハ賞牌ノ模型又ハ寫圖ヲ附スヘシ

第四十條

閉會后十日限リ出品主又ハ代理人總代人ハ其品物ヲ場外ニ搬出スヘシ（印ハ朱書）

出品	品名	產地	斤目
右御定メ期日迄無相違出品可致候也	「內國用何製茶 茶銘何々」	「何國郡町村字 何々畑」	「何 斤」
	輸出向何製茶 茶銘何々」		「何 斤」
明治 年 月 日			
製茶共進會事務所御中			
前書之通相違無之候也			
何府何郡何町區長或ハ 何縣何區何村戶長		苗 字 名「印」	
何府下何郡何町區何村 何縣何區何村		苗 字 名「印」	

「毎區ノ朱書ハ例ヲ示スマテナレハ出品者ハ成ヘン實際ソコトヲ委シテ書スヘシ」

裁 培 部	出 品 高	名 稱	物 名
	何拾何斤 外ニ審査用何程	何拾何斤 元價何拾圓 賣價何拾圓	何縣下何國何郡何町何番地 何之誰印 何之誰印 製造人 製造人 何之誰

「此區ハ何國用何製茶ヲ輸出向何製茶カ各自ノ見込
ル所ヲ判然ト内外ニ區別シ及ヒ其茶銘ヲ記載スヘシ」
「此區ハ出品ノ數量ヲ記載スヘシ」
「此項ハ茶樹培養ノ順序ヲ左ノ區毎ニ記載スヘシ」

國圖ノ地形地質土色及 氣候	現今ノ反別及ヒ年度	播 付 方	耕耘培養ノ度	肥料ノ種類一反歩ノ費	茶玉露園日覆ノ時及 ヒ入費
「山地カ山麓ニテ南面カ北方カ平地カ新墾地カ古畑カ肥地 カ瘠地カ燥地カ濕地カ粘土カ礫赤ノ塩地カ同砂地カ寒冷 カ温暖カ」	「何拾何町反歩内何年目何町何年目何反歩或ハ畑ノ周圍ニ アルモノハ株數畦數ヲ以テ反別ニ引直シ何段歩トス」 「輪蒔ニテ壹反ニ付何株畦蒔ニテ畦間凡何尺カ或ハ畑周圍 ニアリテ株蒔或ハ畦蒔トス」	「春何月夏何月耕耘或ハ中堀根土チカキ除シカ或ハカキヨ スルカ何々肥ヲ以テ養ヒ何時剪枝スルカ」 「何月何肥何程施シ代價何程或ハ人糞何荷牛馬ノ踏肥何荷 又ハ生草何程其他何云々」	「何々ヲ以テ何月何日着手ス費用年々ノ割合一反歩凡何程		

毎歲摘葉ノ順序季節及 ヒ摘賃				「壹番芽何月何日頃ヨリ凡ソ何日間ニ番芽何月何日ニ番芽 何月何日摘賃壹貫目ニ付何錢」			
生葉ノ収穫	十六年	十五年	十四年	十三年			
壹番芽	「何千何百貫目」	同	同	同			
ニ番芽	「同」	同	同	同			
三番芽	「同」	同	同	同			
製造部				「綠色茶 碾茶玉露製宇治製茶再製 綠茶釜蒸茶其他ノモノ」			
生葉ヲ蒸シ方或ハ熬リ 方				「何々ノ器械ヲ用ヒ何々ヲ適度トス一日壹人何貫目ヲ蒸ス」			
焙爐ヲ烘リ方				「通常宇治風ノ焙爐ヲ以テ揚ケ即何人下ヲ揉何人ニテ何箇 ヲ用ヒ一箇ノ炭ノ料何程一日何貫目ヲ烘ル又ハ何焙爐ヲ 用テ何々ス」			

篩	分	ケ	「何番篩或ハ何分目篩ヲ以テ選切リ分類シ何番篩ヲ以テ留 メ何番ヲ以テ葉揃ヘ何種ニ分ツ」			
同 紅茶 烏龍茶						
萎	凋		「日光ニ晒シ或ハ火熱ヲ用ヒ何々ヲ適度トス」			
熬	炒		「何々ノ釜或ハ鍋ヲ用ヒ何々ヲ適度トス」			
揉	揉		「何々ノ臺コテ手ヲ用ヒ何々ヲ足ヲ用ヒ一日壹人何程ヲ 揉ム等」			
蒸	蒸		「何々ノ法ニヨリ日温ヲ用ヒ或ハ温室ヲ用ヒル等」			
熬	方		「何々ノ焙爐ヲ用ヒ何等ノ火程ヲ用ヒル等」			
篩	分	方	「何番ヲ用ヒ選切ラナン何番ヲ以テ折碎シ何番ヲ以テ葉揃 シ何種ニ分ツ」			

製造費計算

製造費計算	箇目		生業ノ量總額	同代價總額	同壹番芽	同貳番芽	同三番芽	製造人夫	同給料
	十六年	十五年							
	何萬何千貫目	同	同	何百何拾圓	何千貫目	何百貫目	何百圓	何百何拾圓	何百何拾圓
	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同

炭	薪	茶	諸	製	製	等級		茶名
						斤量	元價	
何百何拾貫目	何拾何貫目	何拾圓	何百何拾圓	何千何百圓	何千何百圓	何千斤	何百圓	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同

官令全書

大政官布達

〇八十五

○第拾三號

五月十六日

農商務卿連名

各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會并勸業委員ヲ設置スルコトヲ得
第一條 諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備フルモノトス
第二條 諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管内農商工事ニ名望アル者ヲ撰テ之ニ充ツ其
人員并處務ノ順序等總テ府知事縣令適宜之ヲ定ム可シ

第三條 諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨ス可シ

第四條 勸業委員ハ區町村若シハ聯合區町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ又ハ區長戶長
ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條 勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ
於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シ

第六條 區町村若シハ聯合區町村ニ於テ農業者商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル
勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲ該會員中ニ選ムルコトヲ得

第七條 府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキ

ハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ請ク
可シ

第八條 勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村及聯合區町村ノ協議費ヲ
以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル
者ハ此例ニ非ラス

第九條 農商務卿及主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮問會又ハ第六條各會ノ意
見ヲ問フコトアル可シ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又
ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

右布達候事

○第十四號

五月廿六日

內務卿連名

今般第拾七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム
到達日數

大政官布達

一〇八十七

京都府	大坂府	神奈川縣	兵庫縣	長崎縣	新潟縣	埼玉縣	群馬縣	千葉縣	茨城縣	栃木縣	三重縣	愛知縣
四	四	即	四	十	五	即	即	即	二	二	四	三
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

静岡縣	山梨縣	滋賀縣	岐阜縣	長野縣	宮城縣	福島縣	岩手縣	青森縣	山形縣	秋田縣	福井縣	石川縣
二	二	四	四	四	五	四	七	十	五	八	八	七
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

太政官布達 二〇八十八

富山縣	鳥取縣	島根縣	岡山縣	廣島縣	山口縣	和歌山縣	德島縣	愛媛縣	高知縣	福岡縣	大分縣	佐賀縣
六日	七日	八日	六日	七日	八日	六日	六日	九日	八日	九日	十一日	十一日

熊本縣 十一日
 宮崎縣 十一日
 鹿島縣 十二日
 但富山佐賀宮崎ノ三縣ハ開關ノ日マテ舊管廳ノ到達日數ニ依ル
 右布達候事

○第拾五號 五月廿六日 大藏卿連名

造幣規則別冊ノ通相定本年八月十六日ヨリ施行シ明治十一年七月大藏省甲第貳拾四號
 同十二年十月同省甲第百壹號布達ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

但本年ハ本文甲第百壹號布達第三條日限中ト雖モ地金ヲ受取ル可
 行布達候事
 造幣規則

第一條 大坂造幣本局若シハ東京該出張所ニ輸入スル内外人民ノ金銀地金ハ左記ノ
 日ヲ除キ毎日之レヲ受取ル可シ但時限ハ本局ニ於テハ午前九時ヨリ午後一時迄出

張所ニ於テハ同九時ヨリ正午十二時迄トス

毎日曜日

大祭日

臨時休暇

一月一日ヨリ
三日マテ

一月五日

九月一日ヨリ
十月卅一日マテ

十二月二十九日ヨリ
三十一日マテ

第二條 非常ノ事アリテ休業スルトキハ速ニ其旨ヲ布達シ地金受取方ヲ止ム可シ

第三條 輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサル可シ但出張所ニ於テハ

輸入高工程ニ超過スルトキハ受取方ヲ拒ムコトアル可シ

金地金

三拾テンス「トロイ」 凡貳百四拾
八匁四分

銀地金

三百テンス「トロイ」 凡貳貫四百
八拾四匁

不純粹金銀地金

舊金銀貨幣

價格貳百圓

金銀混合地金

第四條 品位詳明ナル外國金銀貨幣ハ其品位ニ據テ受取ル可シ若シ試驗銘解ヲ要ス
ルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ但出張所ニ於テハ其試驗銘

解ヲ要スル者ノ外ハ之ヲ受取ラサル可シ

第五條 品位詳明ナル金銀地金ハ照査試驗ヲ爲シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ若シ
試驗銘解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ

第六條 品位詳明ナラサル金銀地金或ハ内外國金銀貨幣ハ試驗銘解ノ上試驗分析シ
其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ

第七條 金銀地金若シハ内外國金銀貨幣ノ試驗銘解ヲ要スル者其銘解減ハ輸入人ノ
負擔スル可シ

第八條 凡テ輸入ノ金銀地金ハ輸入人若シハ其代理者ヲ立會シメテ秤量シ本局ニ於
テハ地金課長出張所ニ於テハ所長ノ假受取證ヲ交付シ試驗分析簿ノ上勘定書ニ試
驗分析表ヲ添ヘ之ヲ輸入人ニ送付ス可シ

第九條 輸入人地金勘定書ノ旨ヲ承諾シ之ヲ捺印シテ回付スルトキハ輸入地金ノ價
額ニ對スル貨幣拂渡證書ヲ輸入人ニ交付シテ假受取證ト交換ス可シ但勘定書送付
ノ日ヨリ三日以内ニ勘定書ヲ回付ヒサルハ承諾シタルモノト爲ス可シ

不純粹銀地金

- 千分中銀九百分以上 純銀拾チンス(トロイ)ニ付 金貳拾六錢三厘
- 同 銀八百五十分以上 同 金貳拾九錢
- 同 銀八百分以上 同 金三拾壹錢七厘
- 同 銀七百五十分以上 同 金三拾四錢四厘

金銀混合地金

- 千分中金銀九百分以上 純金拾チンス(トロイ)ニ付 金壹圓
- 純銀拾チンス(トロイ)ニ付 金貳拾六錢三厘
- 同 金銀八百五十分以上 純金拾チンス(トロイ)ニ付 金壹圓拾貳錢七厘
- 純銀拾チンス(トロイ)ニ付 金貳拾九錢
- 同 金銀八百百分以上 純金拾チンス(トロイ)ニ付 金壹圓貳拾五錢四厘
- 純銀拾チンス(トロイ)ニ付 金三拾壹錢七厘
- 同 金銀七百五十分以上 純金拾チンス(トロイ)ニ付 金壹圓三拾八錢壹厘
- 純銀拾チンス(トロイ)ニ付 金三拾四錢四厘

第十三條 出張所ニ地金又ハ内外國金銀貨幣ヲ輸入シテ貨幣鑄造ヲ請求スル者ハ迎
 賞並保險料トシテ成貨壹萬圓ニ付金六拾五圓ヲ納ム可シ但大坂ニ於テ成貨拂渡チ

乞フ者ハ其半額ヲ減ス

第十四條 輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サスルテ返却スルトキハ左ノ費用ヲ收入ス可シ

試驗鑄解料

- 金地金 千分中金分百 五百チンス「トロイ」未滿 金壹圓
- 金銀混合地金 千分中金分百 五百チンス「トロイ」以上 金貳圓
- 同 千チンス「トロイ」未滿 同上之ニ準ス
- 銀地金 千分中金分百 千チンス「トロイ」未滿 金壹圓
- 金銀混合地金 千分中金分百 千チンス「トロイ」以上 金貳圓
- 同 貳千チンス「トロイ」未滿 同上之ニ準ス

試驗分析料

- 金地金 壹塊ニ付 金貳圓
- 金銀混合地金 壹塊ニ付 金壹圓
- 銀地金 壹塊ニ付 金壹圓
- 照査試驗料

試験分析料ニ準ス

第十五條 流通不便ノ貨幣ハ本局若シハ出張所ニ於テ鑑定シ左ノ量目以上ナレハ左ノ手数料ヲ收入シテ之ヲ受取リ其翌日代リ貨幣ヲ拂渡ス可シ

金貨幣量目五ナンス「トロイ」
凡四拾壹
匁四分
千分ノ三、半

壹圓銀貨幣量目五拾ナンス「トロイ」
凡四百
拾四匁
千分ノ五

補助銀銅貨幣
量目ニ制限ナシ
無手数料

鋪破目アリ又ハ音響惡キ貨幣ト雖モ全体ヲ失ハス量目減少セサル者ハ金銀共一枚ヲ以テ一枚ト交換シ手数料ハ受取ラサル可シ

第十六條 金銀地金及ヒ金銀混合地金ニ含有スル雜物ハ渾テ返却セサルヘシ

○第拾六號 五月廿八日 大藏卿連名

明治十五年 第十二 第六拾三號ヲ以テ烟草稅則改定布告候ニ付テハ印紙別紙見本ノ通相定ム

右布達候事 (見本畧之)

○第拾七號 六月一日 農商務卿連名

明治十一年 第十 舊開拓使乙 第貳拾四號布達森林監護假條例中第九條ヲ刪除シ向後野桑保護ハ右森林監護假條例ニ準據可致且同年 第十一 同使乙 第貳拾八號布達養蠶條例ハ自今廢止ス

空函館縣札幌縣根室縣へ布達候事

○第拾八號 六月四日 大藏卿連名

明治十五年 第十二 第六拾三號布告烟草稅則本年七月一日ヨリ施行候ニ付左ノ通心得ヘ

烟草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造烟草ヲ所持スル者ハ本年限り其所持人ニ於テ稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ貼用スルヲ得但此場合ニ於テハ所持人ハ稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記スヘシ
稅則施行前既ニ裝置セル製造烟草ハ本年限り其裝置ノ儘賣捌コトヲ得尤稅則第十三條ニ照シ不足ニ係ル印紙ハ増加貼用スヘシ

印紙ハ舊長印紙及ヒ拾錢印紙ヲ除クノ外當分新舊取交セ使用スヘシ
舊長印紙及ヒ拾錢印紙ハ印紙賣捌所ニ就テ引換ヲ乞フヘシ
右布達候事

○第拾九號 六月四日 農商務卿連名

明治十四年^{十二}月^{十二}日 第壹號布達西洋形船々長運轉手機關手續規程第二條左ノ通改正ス
定時試験ハ内國人ハ毎月第一第三水曜日外國人ハ毎月第二火曜日ヲ以テ東京試験所
ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサル時ハ農商務省ヨリ其旨十五日以前ニ廣告スヘシ
右布達候事

○第貳拾號 六月十一日 大藏卿連名

明治十五年^{十二}月^{十二}日 第六拾三號布告烟草稅則中左ノ通心得ヘシ
第一項 稅則第二條製造人ハ未製造ノ煙草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造
シ仲買人又ハ小賣人ヘ賣渡スヲ云フ
第二項 稅則第三十一條煙草(營業者)トアルハ製造人仲買人ノミヲ云フ

第三項 稅則第二十條煙草印紙ノ貼用ハ第一號離形ノ通之ヲ貼用シ其價格及量目ヲ
付記スヘシ帶印紙ハ結束ノ上兩端ニ余紙アルモ之ヲ截斷スヘカラス

第四項 稅則第二十一條製造人ノ氏名住所ハ箱詰紙包ハ其見易キ箇所帶印紙ハ其印
紙彩紋ノ側面ヘ記載スヘシ

第五項 稅則第十四條煙草印紙ノ消印ハ七分以上ノモノヲ用井墨肉ヲ以テ押捺スヘシ

第六項 稅則第十七條ニ據リ輸出煙草ノ戻稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ
裝置種類ヲ分テ個數量目及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關
ヘ出願シ檢査ヲ受クヘシ

第七項 稅則第二十三條ノ銀簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ
製造人
煙草製造帳
仲買人
年月日種類及ヒ未製造烟草何程ヲ何某ヨリ
買入レ何程ニ製造シ其裝置種類定價區別量
目個數代價及ヒ賣渡ノ數等ヲ記スヘシ

煙草買入帳

年月日種類價格量目及ヒ賣主ノ氏名住所ヲ
記スヘシ但製造煙草ト製造煙草トハ帳簿
若クハ記入口譯ヲ異ニスヘシ以下之ニ準ス

同

煙草賣渡帳

年月日種類價格量目及ヒ買主ノ氏名住所ヲ
記スヘシ但賣前ニ同シ

小賣人

煙草買入帳

未製造品買入ノコトヲ除クノ外總テ仲買人
ノ帳簿ト同シ

第八項 稅則第二十七條第二十八條ノ届出ヲ爲ストキハ第二號雜形ニ做ヒ之ヲ調製

スヘシ

第九項 稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號雜形ニ做ヒ各自之ヲ調製スヘシ

第十項 煙草製造人ハ其製造所及ヒ器械ノ員數増減共其時々管轄廳ニ届出ヘシ但賃

切コ付スルモノハ其賃切入ノ氏名住所并使用スル器械ノ員數及ヒ増減トモ其時々

管轄廳ニ届出ヘシ

第十一項 仲買人小賣人コシテ裝置煙草ヲ五匁以下册賣ニ爲ストキハ稅則第十五條

ニ據リ結束スヘシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏

名住所ヲ付配スヘシ

右布達候事

第壹號雛形

烟草印紙貼用方略圖

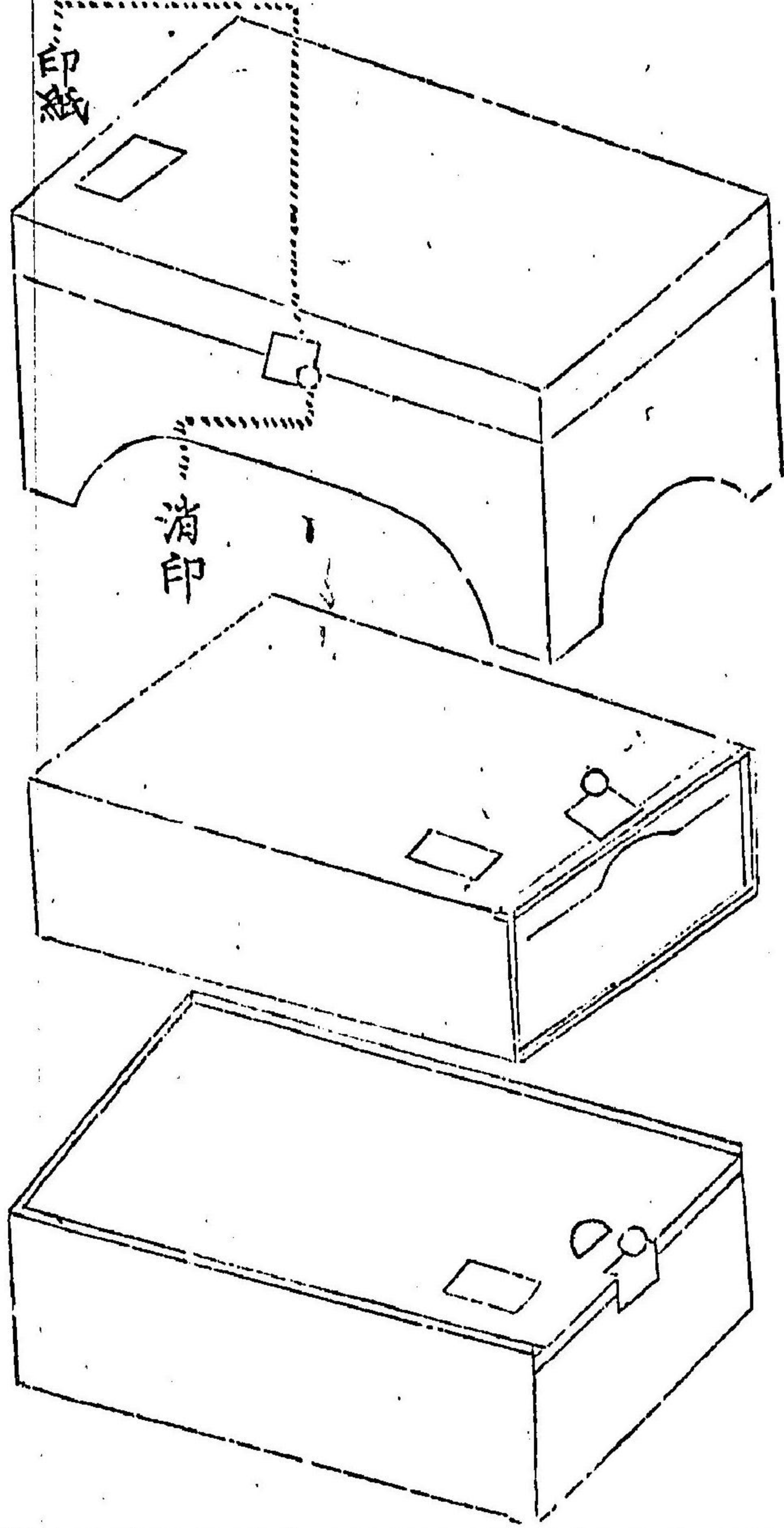
箱類

□印紙

○消印 印紙ノ半面

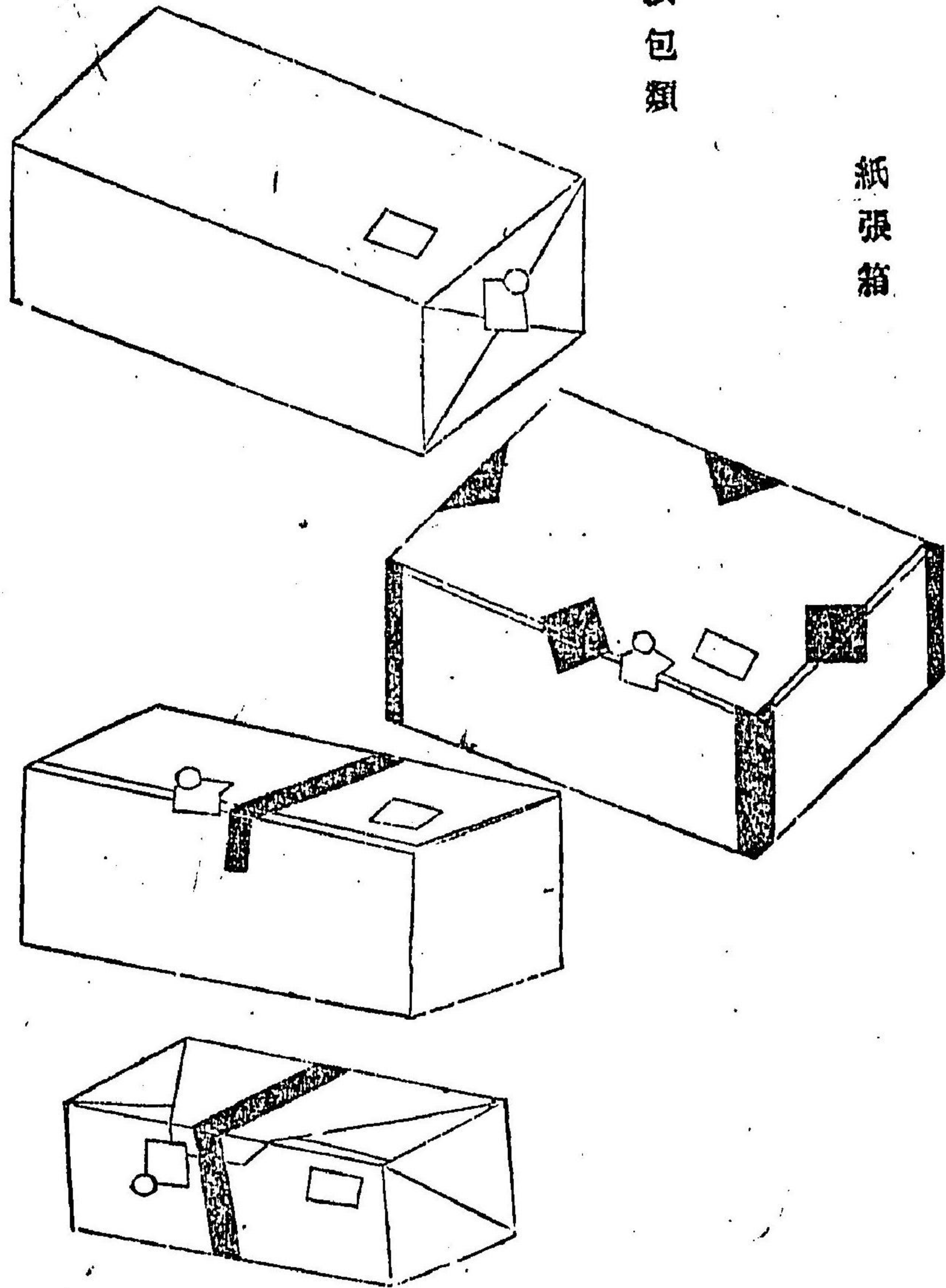
■他所へ掛ケ押捺ス

□價格量目氏名住所

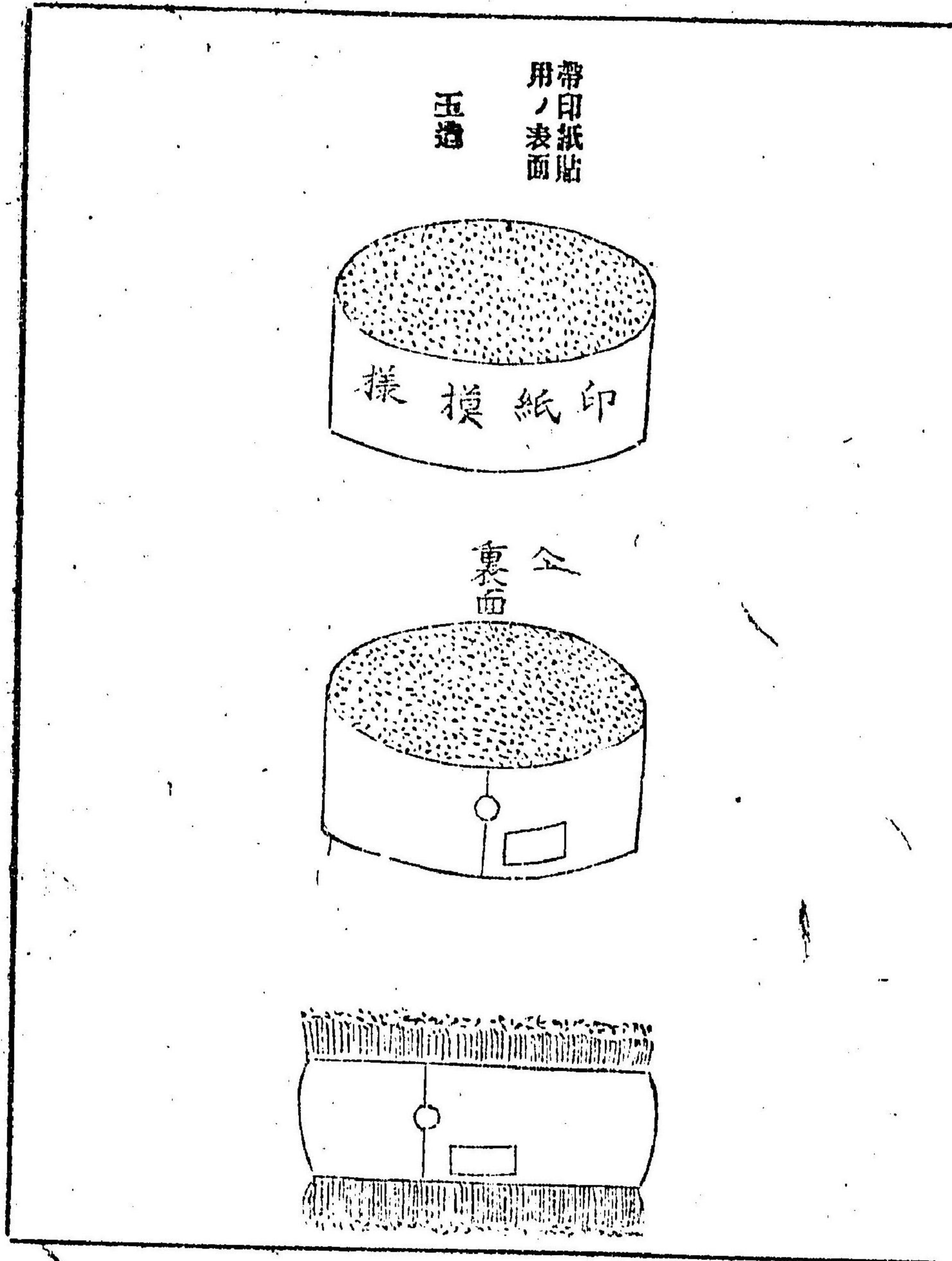


紙張箱

紙包類



第二號離形									
明治何年何月ヨリ何年何月マデ壹々年分煙草及印紙出入高計算帳									
未製造ノ煙草越高	全買入高	全賣捌高	差引殘高	製造煙草越高	全買入高	全賣捌高	差引殘高	煙草印紙越高	全買入高



官令五

全賣捌高

差引殘高

右之通相違無之候也

年月日

(製造)人住所姓名
(仲買)人住所姓名
(小賣)

府知事
縣令宛

第三號離形

鑑札番號

烟草 (製造) (仲買) (小賣) 營業

營業人住所姓名

木札 寸法巾八寸 壁二尺九寸

○第貳拾壹號

六月廿二日

内務卿連名

凡官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルコトヲ得

官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正ストキハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ

右布達候事

三

太政官布達

〇九十八

○第貳拾貳號

六月廿五日

農商務卿連名

本年三月第八號ヲ及布達候第二回内國繪畫共進會規則別冊ノ通之ヲ定ム
右布達候事

明治十七年第二回内國繪畫共進會規則

第一條 本會ハ明治十七年四月十一日ヨリ五月三十日まで東京上野公園内ニ於テ開クヘシ

第二條 會場ハ毎日午前第八時ニ開キ午後第五時ニ閉ツヘシ

第三條 本會事務所ハ十七年二月十五日ヨリ上野公園内ニ開クヘシ

但事務所開設前ニ係ル事務ハ農商務省博覽會掛ニ於テ取扱フヘシ

第四條 洋法ノ畫ヲ除クノ外流派ノ如何ヲ問ハズ總テ出品スルヲ許スト雖モ燒繪蒔繪繡繪染繪織繪及ヒ猥雜戲狂ニ屬スル圖畫ノ類并ニ他人ノ畫或ハ未ダ卒業セサル學校生徒ノ畫キタル者ハ出品スルヲ許サズ

第五條 出品ハ設色ト赤墨トニ拘ラズ新ニ畫キタル疎密ニ様々ニ其畫ヲ開フ
疎トハ其畫密トノ豎幅

二葉ニ限ルヘシ

第六條 豎幅ノ絹紙ハ豎四尺五寸幅二尺コノ之ヲ假粹ニ貼シ有色ノ絹紙ヲ以テ其縁ヲ包ムニ止メ其總尺ハ豎四尺八寸幅二尺三寸ニ作ルヘシ

第七條 出品セント欲スルモノハ其居住地ノ管轄廳ニ本貫寄留ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ該廳ニ於テハ本則ニ抵觸セサルモノハ之ヲ許可シ管内出品ノ概數第廿六條ニ從ヒ區別ス

第十七年一月十日迄ニ農商務省博覽會掛ニ通知スヘシ

第八條 出品目錄ハ別紙第一號書式ニ倣ヒ二通履歷書ハ別紙第二號書式ニ倣ヒ一通ヲ製シ管轄廳ニ差出スヘシ該廳ニ於テハ之ヲ取纏メ十七年二月十日迄ニ農商務省博覽會掛ニ送付スヘシ

第九條 出品總目錄ハ本會事務所ニ於テ編纂スヘシ

第十條 繪事上ノ著述アルモノハ已ニ印刷スルト否トヲ問ハズ出品ニ添ヘテ差出スヘシ

但前會出陳ノ著述ハ其後校訂又ハ増補シタルモノニ非サレハ之ヲ要セス

第十一條 出品ニハ事務所ヨリ下付スル所ノ小札ニ住所氏名ヲ記載シ之ヲ附シ又賣

品ニハ其賣價ヲ記載シタル小札非賣品ニハ非賣品ノ小札ヲ附スヘシ

第十二條 出品中歴史ニ關スル圖畫ニハ其解説肖像ニハ其人名眞景ニハ其地名ヲ記
載シテ之ヲ附スヘシ

第十三條 開會中出品ヲ賣買スルヲ得ト雖モ閉場後ニ非サレハ搬出スルヲ許サス

第十四條 賣買ノ契約ヲナセシモノニハ事務所ヨリ下付スル所ノ約定濟ノ小札ヲ附
スヘシ

第十五條 出品ノ運送陳列及ヒ出品人或ハ代理人ノ往復滞在等ニ係ル費用ハ總テ自
辨タルヘシ

第十六條 出品ハ開場前ニ必ス陳列ヲ終リ閉場後七日間ニ搬出スヘシ

第十七條 出品人或ハ代理人ハ出品上ノ事ニ關シテハ總テ本會掛員ノ指揮ニ從フヘ
シ

第十八條 出品人ノ便利ヲ圖リ東京府下ニ於テ出品委託引受所ヲ設クヘシ

但引受所ノ位置取扱ノ手續等ハ農商務省博覽會掛ヨリ追テ報告スヘシ

第十九條 來觀人ハ入場ノ節入場券ヲ門衛ニ渡スヘシ

但入場券ハ一人一葉ニ限ル滿五歳以下ノ小兒ハ之ヲ要セス

第二十條 入場券料ハ平日五錢日曜日拾錢月曜日三錢トス

第二十一條 出品人或ハ代理人ニハ常用門鑑ヲ下付シ諸職工傭夫等ニハ入場ノ都度臨
時門鑑ヲ下付スヘシ

但門鑑ハ他人ニ貸與スルヲ禁ス

第二十二條 本會事務所ハ出品ニ對シ相當ノ保護ヲナスト雖モ若シ盜難火災風雲等其
他避クヘカラサル事故ヨリ生スル損害ハ其實ニ任セサルモノトス

第二十三條 本會事務所ノ允可ナクシテ場内或ハ陳列品ヲ寫眞シ又ハ看護人ノ承諾ナ
クシテ陳列品ニ觸ルヲ許サス

第二十四條 出品優等ノモノニハ褒賞ヲ授與スヘシ

第二十五條 出品ノ審査ハ開場當日ヨリ始メ褒賞授與式ハ十七年五月二十日ヲ以テ執

行スヘシ

第廿六條 出品陳列區分

第一區 巨勢土佐往吉派ノ類

第二區 狩野派ノ類

第三區 支那南北派ノ類

第四區 菱川宮川派ノ類

第五區 圓山四條派ノ類

第六區 第一區ヨリ第五區ニ至ルノ畫風ニ類似セス全ク流派ヲ異ニスルモノノ類

第七區 新ニ機軸ヲ出シ別ニ見解ヲ開キタルモノ

右ニ區分スル所ハ畫樣ノ異同ニ從ヒ之ヲ類集スルモノタルヲ以テ各派名ノ如キモ單

ニ其標準トスル所ヲ示スノミ故ニ派名ヲ明記セサルモノハ其畫樣ノ類似スル區内ニ

陳列シ其餘ハ第六第七ノ兩區内ニ陳列スヘシ

明治十七年 第二回内國繪畫共進會附則

第一條 本邦及ヒ支那ノ古畫ニシテ模範トナルヘキモノヲ別室ニ陳列シテ參考ニ充

ツ之ヲ所藏スルモノハ其意ヲ體シ務メテ出品スルヲ要ス

第二條 出品セント欲スルモノハ第三號書式ニ倣ヒ目錄一通ヲ製シ十七年三月一日

迄ニ本會事務所ニ送付スヘシ

第三條 現品ハ鑑査ノ上品主ト協議シ陳列日限ヲ定ムルモノトス

但出品ヲ要セサルモノト認ムルトキハ直ニ之ヲ返付スルコトアルヘシ

第四條 出品優等ノモノハ之ヲ寫眞又ハ縮圖レテ印刷スルコトアリトス若シ之ヲ欲

セサルモノハ其旨ヲ出品目錄中ニ記載スヘシ

第五條 本則第二十五條其他參考室出品ノ趣旨ニ反スル條々ハ此附則ニ適用セサル

モノトス

第一號書式

用紙半紙

出品目錄

第何區

本籍又ハ寄留ノ府郡縣區町村名番地

何 族

氏 名號

何年何月生何年何月

第一號

圖 名

密

設色
水墨

絹又ハ紙

非賣品ハ非賣ト記シ賣品ハ賣價ヲ記スヘシ

第二號

全

疎

全

全

全

歷史上其他詳細ノ說解ヲ要スルモノハ茲ニ記載スヘシ

著述部

第一號

書 名

冊

數

非賣品ハ非賣ト記シ賣品ハ賣價ヲ記スヘシ

第二號

全

第三號

全

第二號書式

用紙半紙

履歷書

本籍 寄留 族

氏 名

號 何年何月生何年何月

一 父ノ氏名號アルモノハ併セ記入スヘシ

一 師ノ氏名號

一 履歷

第三號書式

用紙半紙

古書出品目錄

官令全書

太政官布達

二〇百二

本籍又ハ寄留
府郡
縣區
町村名番地

族

出品氏名

第何號	圖	樣	筆	者	幅軸其外	數
-----	---	---	---	---	------	---

模寫斷ノ分ハ番號欄内へ其旨記載スヘシ

○第廿三號

六月廿五日

大藏卿連名

明治五年(十一月)太政官第三百五拾三號達同八年(三月)大藏省甲第六號布達本年八月十五日限り廢止ス

右布達候事

○第廿四號

七月卅日

農商務卿連名

明治十一年(五月)第八號布告樣式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ一箇所差附ス

右布達候事

○第貳拾五號

七月三十日

農商務卿連名

神戸株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引ヲ差附ス

右布達候事

○第貳拾六號

七月三十一日

農商務卿連名

明治十年^{十二}月^{十二}第八拾八號布告ニ依リ十八年ニ於テ開設スヘキ第三回内國勸業博覽會ハ二十二年ニ延期ス

右布達候事

○第貳拾七號

七月三十一日

農商務卿連名

來ル明治十八年四月一日ヨリ六月二十日迄東京上野公園ニ於テ繭絲織物陶漆器共進會ヲ開設ス

但本文品種ハ左ノ制限ニ依リ該會期則ハ退テ布達スヘシ

一 繭

一 絲 生糸及ヒ機械取木綿糸ニ限ル

一 織物 絹木綿麻毛ノ織物及ヒ各種ノ交織物ニ限ル
一 陶漆器 飲食器ニ限ル

右布達候事

○第貳拾八號 八月六日 農商務卿連名

米商會所及株式取引所ノ仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認許ヲ得タルトキハ
認許料トシテ金三拾圓ニ農商務省ニ納ムヘシ

右布達候事

○第貳拾九號 八月廿四日 工部卿連名

明治十五年四月第七號ヲ以テ埼玉縣下川口ヨリ群馬縣下前橋マテ鐵道建築ノ儀布達候
處今般右川口ヨリ東京府下板橋新宿目黒等ニ經テ品川マテ線路ヲ建設シ同所ニ於テ
東京横濱間ノ官線ニ接続セシム

右布達候事

○第三拾號 九月七日

韶子内親王薨去ニ付東京府下ハ本日ヨリ御葬送當日マテ其他ノ地方ハ布達到達ノ日
ヨリ三日間歌舞音曲停止セシム

右布達候事

○第三拾一號 九月八日

章子内親王薨去ニ付東京府下ハ本日ヨリ御葬送當日マテ其他ノ地方ハ布達到達ノ日
ヨリ三日間歌舞音曲停止セシム

右布達候事

○第三拾貳號 十月三日 外務卿連名

朝鮮國間行里程取極約書別紙ノ通訂定ス
右布達候事
朝鮮國間行里程取極約書

第一條

國政府ハ 日本曆明治十五年八月三十一日 各全權大臣ノ議定シタル續約第一款ノ旨
朝鮮曆壬午年七月十七日

趣ニ依リ朝鮮國仁川元山釜山ノ三港ニ於テ今年可取廣開行里程ヲ雙方委任ノ大臣協
議ノ上左ノ通り定メタリ

第二條

仁川港

東ハ安山始興果川ヲ限ル

東北ハ陽川金浦ヲ限ル

北ハ江華島ヲ限ル

元山港

西ハ德源府管下馬息嶺ヲ限ル

南ハ安邊府管下古龍池院ヲ限ル

北ハ文川郡管下紫加直ヲ限ル

釜山港

東ハ機張ヲ限ル

西ハ金海ヲ限ル

南ハ鳴湖ヲ限ル

北ハ梁山ヲ限ル

右ニ定メタル各地ノ境界ニハ兩國官吏立會ノ上標木ヲ立テ以テ四方ノ限止ヲ明カニ
スヘシ

第三條

來ル日本曆明治十七年朝鮮曆甲申年更ニ擴張スヘキ里程ノ境界ハ其期ニ至リ兩國委
員議定ノ上此約書ノ附録ト爲スヘシ

第四條

此里程内ニ於テ日本人隨意遊獵スルヲ得ルト雖トモ人家接近ノ地並ニ朝鮮政府ノ禁
制スル場所ニ於テ發銃スヘカラス

第五條

日本人此里程内ニ在テ或ハ暴行ヲナシ又ハ境界ヲ踰越スル者アル時ハ地方官吏ニテ

之ヲ取押ヘ日本領事館ニ送交シ或ハ其地ニ引留置領事官ニ通知シ處分ヲナシムヘシ但シ引留又ハ送致ノ際苛虐ノ取扱ヲ爲ス可テサルハ勿論引留時間ハ領事館往復ニ必要ナル時間ニ限ルヘシ

第六條

此里程内ニ於テ朝鮮人往來ノ日本人ニ對シ暴行ヲ爲ス者アレハ地方官速カニ吏ヲ派シ之ヲ救護シ其暴行人ヲ嚴罰スヘシ

第七條

日本人間行ノ際或ハ日暮歸ル能ハス或ハ途中疾病事故等有テ行ク能ハサル者ニ遇ハ沿路ノ人民其請ニ應シテ橋馬ヲ雇ヒ或ハ其家ニ休宿セシムル等懇切ノ取扱ヲナスヘシ但シ其橋馬費宿料等ハ該日本人ヨリ完済スヘシ

第八條

第四條ヨリ以下ノ諸條ハ朝鮮政府ニテ里程内ノ鄉村及道路ニ揭示シ人民ヲシテ能ク遵奉セシムヘシ

右確實ナルヲ證シ兩國ノ各委任大臣記名調印スル者也

大日本國明治十六年七月二十五日

大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辦理公使竹添進一郎 印

全權大臣督辦交涉通商事務閣泳穆 印

○第三拾三號

十月十五日

外務卿連名

朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則別紙ノ通協議決定ス
右布達候事

約定シタル朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則

第一條 朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ日本國人朝鮮國ノ法禁ヲ犯シタルトキハ水陸共左ノ簡條ニ照シ取扱フヘシ

第二條 朝鮮國官吏ハ法禁ヲ犯セル日本國人ヲ取押ヘタルトキハ其罪證ヲ具録シ之ヲ添テ其日本人ヲ最寄開港場ノ日本領事官ヘ引渡シ相當ノ處分ヲ要求スヘシ日本

領事官ハ速ニ其要求ニ應ジ之ヲ審査シ照律處斷スヘシ但シ朝鮮國官吏取押ヘ又ハ
護送ノ際苛虐ノ取扱ヲナスコト無ルヘシ

第三條 犯罪ト認ムヘキ日本人ヲ海陸孰レヨリ護送スルモ朝鮮官吏ノ勝手ナルヘシ
但シ成文速カニ護送シ事故ナラシテ徒ニ罪犯ヲ其地ニ滯留スヘカラス

第四條 朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ罪ヲ犯セシト認ムル日本人ヲ海路ヨリ護送スルト
キハ朝鮮官吏日本人ノ船舶ニ乗込或ハ別船ニ在テ之ヲ引來ル俱ニ其便宜ニ任ス如
シ陸路ヨリ護送スルトキハ其日本船ハ逐テ引渡ス迄ノ間ハ地方官コテ之ヲ監守シ
毀失セシムルコト無ルヘシ且其船具漁具其外運搬シ難キ物品ハ目錄ニ作リ罪犯ニ
添テ之ヲ送付スヘシ

第五條 如シ薪水食糧ヲ得ルカ爲メ又ハ獲タル所ノ魚類ヲ賣買スル爲メ上陸シ陸上
ニ於テ其犯罪同行中若干名ノミニ係ルトキハ其若干名ノミニテ此手續ニ依テ護送シ
其他ハ之ヲ拘引スルコト無ルヘシ又海上ナレハ其罪犯ヲ除クノ外殘員猶航海ニ堪
ルトキハ朝鮮官吏ハ其罪犯ノヲ護送シ其他ハ之ヲ放逐スヘシ

第六條 此規則ハ實行ノ上更ニ増損スヘキモノ有レハ雙方協議改正スルヲ得ヘシ
右確實ナルヲ證シ兩國ノ各委任大臣茲ニ記名調印スル者也

大日本國明治十六年七月二十五日

大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣 辦理公使 竹添進一郎 印

全權大臣 督辦交涉通商事務 閔泳穆 印

○第三拾四號

十月廿三日

內務卿 連名

今般第三拾五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通相定
メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月內務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

醫術開業試驗規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受シヘシ

第二條 內務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ
試験期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 內務卿ハ醫術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府縣立醫學學校病院ニ從事ス
ル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ビ試験委員ヲ命スヘシ

但齒科醫術開業試験ニ於テハ齒科醫覺名ヲ試験委員ニ加フルコトアルヘシ

第四條 內務卿ハ主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験チ同
時ニ受クルコトヲ得ス
但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
前期試験科目
第一 物理學
第二 化學

第三 解剖學
第四 生理學
後期試験科目
第一 外科學
第二 內科學
第三 藥物學
第四 眼科學
第五 產科學
第六 臨床實驗

第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
第一 齒科解剖及生理
第二 齒科病理及治療
第三 齒科用藥品

第四 齒科用器械

第五 實地試驗

第八條 前期試驗ハ一ケ年半以上後期試験ハ更ニ一ケ年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務省ニ進達スルモノトス但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師ニ名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サレコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ試験主事者試験委員連署スヘシ

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ受ケル者ハ試験開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓

後期試験手数料 金五圓

齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受験中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セズ

○第三拾五號 十一月五日 農商務卿連名

本年七月第貳拾七號ヲ以テ及布達候齒絲織物陶漆器共進會規則別冊ノ通之ヲ定ム

右布達候事

繭絲織物陶漆器共進會規則

第一章 綱領

第一條 本會ハ明治十八年四月一日ヨリ六月廿日迄東京上野公園内ニ於テ開クヘシ

第二條 本會ノ出品ハ四區ニ分ツ即チ左ノ如シ

第一區 繭

第二區 絲

第一類 生絲

第二類 器械取木棉絲

第三區 織物

第一類 絹織物

第二類 木棉織物

第三類 麻手ノ織物及ヒ各種ノ交織物

第四區 陶漆器

第一類 陶飲食器

第二類 漆飲食器

第三條 出品ハ明治十七年一月以後ノ内國製産物ニ限ルモノトス

但比較ノ爲メ外國品及ヒ該年度以前ノ製産物ヲ添出スルハ妨ケナシ

第四條 出品數量ノ制限左ノ如シ

繭 一種ニ付一升ヨリ三升迄

絲 生絲一種ニ付一斤ヨリ百斤迄

器械取木棉絲一種ニ付十總ヨリ一丸迄

織物 一種ニ付反物ハ二反ヨリ三反迄匹物ハ一匹ヨリ二匹迄一枚物ハ二枚ヨリ

三枚迄

陶漆器

陶飲食器一種ニ付揃物ハ一揃ヨリ二揃迄一箇物ハ二箇ヨリ三箇迄
漆飲食器同前

第五條 總テ出品セント欲スル者ハ其管轄廳ニ願出許可ヲ受クヘシ管轄廳ニ於テハ別紙書式第一號ニ倣ヒ出品目錄ニ通テ製シ明治十七年十二月限り本會事務所ヘ差出スヘシ

第六條 出品遞送費及ヒ陳列費又ハ飾箱飾臺等ハ出品主ノ自辨タルヘシ但飾箱ハ都合ニヨリ有合ノ分ヲ貸與スルコトアルヘシ

第七條 出品ハ事務所ニ於テ相當ノ保護ヲナスト雖トモ萬一盜難火災風震等避クヘカラサル事故ニテ破損紛失スルトキハ其責ニ任セサルモノトス

第二章 褒賞

第八條 出品審査ノ上優等ノモノヘハ褒賞ヲ授與ス其等級左ノ如シ

- 一等賞
- 二等賞
- 三等賞
- 四等賞

五等賞

六等賞

七等賞

第九條 一人ニテ數類ノ出品ヲナシ每類優等ナル時ハ各相當ノ褒賞ヲ與フヘシ

但出品主ニ非サルモ出品ニ對シテ特別ノ功勞アルモノハ既往現在ヲ問ハズ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第十條 褒賞授與式ハ六月十日ヲ以テ執行スヘシ

第三章 審査

第十一條 審査官ハ出品ヲ審査シ其優劣ヲ判シ褒賞ノ等級ヲ擬シ廣告文ヲ作り之ヲ審査官長ニ差出スヘシ審査官長ハ幹事ト商議按定シテ之ヲ農商務卿ニ差出シ以テ其認可ヲ請フヘシ

第十二條 出品主ニシテ審査官ニ對シテマシタル者ハ其出品ノ審査ニ加フルヲ得ス

第十三條 審査ハ四月十日ニ始メ五月三十日ニ終ルモノトス

第四章 出品主

第十四條 繭出品主ハ別紙書式第二號生絲出品主ハ第三號其他出品主ハ第四號ニ做

ヒ出品解説一通ヲ製シ管轄廳ヲ經テ明治十八年二月限リ事務所ニ差出スヘシ

第十五條 繭出品主ハ年内繭卵紙一枚以上ヲ飼養スル者生絲出品主ハ年内五斤以上

ヲ製スル者ニ限ルヘシ

第十六條 出品主ハ都合ニ因リ其出品ニ對シ解説ヲナシ得ル者ヲ以テ代理人トナシ

或ハ數人協同シテ總代人ヲ出スモ妨ケナシ

第十七條 出品ノ陳列ハ二月二十日ニ始メ三月二十八日ニ終ルモノトス故ニ出品主

ハ成ルヘシ二月二十日以前其出品ヲ各自便宜ニ從ヒ東京ニ遞送シ置キ其陳列ニ從

事スヘシ

但陳列ニ就テハ都テ本會掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第十八條 出品主ハ事務所ヨリ下付スル所ノ小札ニ其住所氏名等ヲ記シ每品ニ添附

スヘシ

但非賣品賣買約定濟附札モ事務所ヨリ下付スヘシ

第十九條 出品賣買約束濟ノモノハ其出品ニ賣買約定濟ノ札ヲ添附スヘシ

但其物品ハ明會後ニ非サレハ搬出スルヲ許サス

第二十條 出品同種ノ物品コシテ内外博覽會或ハ共進會等ニ於テ賞牌褒狀等ヲ得ク

ル者ハ其摸形又ハ寫圖ヲ掲ケ置クヘシ

第二十一條 出品主ハ閉會後十五日限リ其出品ヲ場外ニ搬出スヘシ

第二十二條 出品主ハ事務所ヨリ下付スル所ノ門鑑ヲ携帯シ會場ニ出入スヘシ

第五章 來觀人

第二十三條 會場開閉時間左ノ如シ尤臨時來觀人ノ入場ヲ差止ムルコトアルヘシ

四月一日ヨリ 同十五日迄

午前第九時開場
午後第四時閉場

四月十六日ヨリ 六月廿日迄

午前第八時開場
午後第五時閉場

第二十四條 來觀人ハ入場ノ額入場券一枚ヲ門衛ニ渡スヘシ

但滿五歳以下ノ幼者ハ此限ニアラス

第二十五條 入場券料ハ一枚金貳錢トス
 第二十六條 入場券ヲ持參スル者ト雖トモ狂疾或ハ爛醉者ト認ムル者ハ入場ヲ許サ
 ス或ハ會場ヨリ立去ラシムルコトアルヘシ
 第二十七條 來觀人ハ出品主或ハ看護人ノ承諾ヲ經ルコト非サレハ出品ニ手ヲ觸ルヘ
 カラス

第六章 賣店

第二十八條 出品主(東京府區内ノ者ヲ除ク)コシテ賣店建設ヲ望ム者ハ其所用ノ地
 坪家作等ヲ取調ヘ之ニ繪圖ヲ添ヘ明治十七年十二月限リ管轄廳ヲ經テ事務所ヘ願
 出ツヘシ

但本會ノ都合ヨリ許可セザレコトアルヘシ

第二十九條 賣店建設地ハ會場外ニ於テ無稅貸與スヘキニ付總テ本會掛員ノ指揮ニ
 從ヒ建設スヘシ

但建設ニ關スル一切ノ費用ハ出品主ノ自辨ケルヘシ

第三十條 賣品ハ出品ト同種ノ物ニ限ルヘシ

但賣品遞送ノ節ハ出品ト區別ヲ立テ混交セシムヘカラス

第三十一條 月曜日毎ニ一周間ノ賣上ケ品數金額等ヲ事務所ニ届出ツヘシ

第三十二條 賣店ハ開會當日ヨリ閉會後十日迄開クコトヲ許ス

但閉店後三十日限リ取拂ヒ跡地ヲ元ノ如ク取直シ返納スヘシ

「第何區第何類」

「用紙十三行官用紙」

「印ハ朱書」

式第一號

出品目錄		品名	數	量	容	積	住	所	姓	名
何品	何斤何匁何匹何段 何枚何打何筋何張 何揃何組何個トカ	長何尺巾何尺ト カ何尺四方トカ	何府下何國何郡何町 何縣何區何村	何之誰						

前書之通出品相違無之候也

年月日

繭絲織物陶漆器共進會 御中

府縣委員官姓名印

〔用紙半紙〕

繭 解 說

名 稱	〔此區ハハ繭ノ黄白及ヒ通稱ヲ記スヘシ (管ハハ亦引鬼縮又昔姫等ノ類)〕	何之誰
出 品 主	〔何縣下何國何郡何町何番地族籍職業〕	何之誰

〔號二第式書〕

出 品 高	〔此區ハハ出品ノ數量ヲ記スヘシ (管ハハ何升)〕
培 桑	〔此項ハハ桑樹ノ種類及ヒ桑田培養等ノコトヲ左ノ表面ノ區 毎ニ記スヘシ〕
桑 ノ 名	〔市平トカ十文字トカコボソトカ〕
桑田一反歩ニ付培 養ノ量及ヒ品種	〔酒粕何百目油粕何百目トカ〕
培養ノ季節	〔何月何日頃トカ〕
桑苗仕立方	〔根分ケトカ枝ブセトカ實マキトカ〕
桑樹仕立方	〔新桑トカ二尺上ヨリ椽トカ木立テトカ〕
一反歩植樹ノ數	〔何本トカ何椽トカ〕
植付ヨリ五ヶ年 目一反ノ桑ノ量	〔何駄トカ何貫トカ〕
桑木ヨリ正葉ヲ 得ル分合	〔凡何分位〕
所有桑園ノ段別	〔何町何段歩〕
箇目	年度
	十 五 年 十 六 年 十 七 年

大政官布達 二〇百十四

桑ノ相場	「何駄ニ付何円何錢トカ」	全	上	全	上
養蠶法	「此項へハ左ノ如ク區毎ニ記スヘシ」				
原種ノ紙數	「何十何枚」				
成繭ノ數量	「上繭何石何斗 玉繭全上 屑繭全上」				
掃立ヨリ揺落セ 迄ノ日數	「何十何日」				
原紙一枚ニ付庭起 ノ籠數又ハ籠坐ノ數	「籠ハ長何尺 横何尺 何十籠籠坐圓徑何尺何十枚」				
育法	「温暖育トカ 清涼育トカ」				
熟繭ノ扱ヒ方	「拾ヒ揚ケトカ 熟繭ニマブシヌルトカ」				
原種一枚ニ付成 繭迄平均人員	「何人何分」				
原種一枚ニ付成 繭迄平均ノ費用	「何圓何錢」				
前同斷養桑ノ目 方	「何駄トカ何貫目トカ」				
原種	「此項へハ繭卵紙ノ由來及ヒ保存ノ方法ヲ記スヘシ」				

年度	十	五	年	十	六	年	十	七	年
成繭ノ石數	「何石何斗」	全	上	全	上	全	上	全	上
販賣代價	「何百何拾何圓」	全	上	全	上	全	上	全	上
費用合計	「何拾何圓」	全	上	全	上	全	上	全	上

「検査表アルモノハ之ヲ添フヘシ」
養蠶方法ノ沿革及ヒ出品主履歴

「此項へハ何年ニ何國何ノ誰ノ卵紙ヲ用ヒ何年ヨリ自製ノ卵紙トス
或ハ年々何國何ノ誰製種ヲ用フトカ又保存方ハ秋風ノ起ルテ俟
テ桐ノ箱ニ入ル、トカ寒中何日頃水ニ浸シ發生ノ頃ハ何月何日
頃箱ノ中ヨリ取出シ上下掛ケ換ヘ置云々ノ類」

「此項ニハ出品ノ繭ニ拘ハラヌ出品人何程ノ養蠶セシテ左ノ
表面ノ區毎ニ記ス尤モ製絲種ノ分ヲモ加ヘテ販賣及ヒ費用
トモ總計ヲ記スヘシ」

「此項へハ創業ヨリ現今迄ノ沿革盛衰發明及ヒ共進會又ハ博覽會等ニ於テ受賞云々ヲ詳記スヘシ」

前書解説之件々相違無之候也

出品主

年月日

何之誰印

前書之通相違無之依テ保證仕候也

何府下何國何郡何町何村何番地族籍職業 何之誰

何府下何國何郡何町何村 區長或ハ戶長

何之誰印

府縣委員 官姓名印

〔用紙半紙〕

生絲解説

出品主

何府下何國何郡何町何村何番地族籍職業 何之誰

號三第式書

名 稱	〔此區へハ生絲通稱、把束方等ヲ記スヘシ 〔譬へハ二本松器機絲、前橋坐繰、折返シ、提々、島田、鐵 筋造リ等ノ類〕〕
出 品 高	〔此區へハ出品ノ數量ヲ記スヘシ 〔何斤〕〕
供 用 齒	〔此區へハ出品ノ生絲ニ用ヒタル齒ノ種類出所等ヲ記スヘシ 〔譬へハ何州何郡何ノ誰製造ノ齒或ハ手作〕〕
器 機 製 法	〔此項へハ製絲ノ順序ヲ記スヘシ則左ノ表面 ノ如シ〕
運 轉 ノ 力	〔蒸氣ナレハ何馬力水車ナレハ車ノ圓徑何尺人カナレハ何人〕
湯 ノ 沸 シ 方	〔蒸氣ナレハ水何石入焚火炭火〕
器 械 所	〔長何間横何間〕
製 絲 釜 數	〔何百何十〕
口 出 シ 人	〔自分ニテ口ヲ出ストカ釜毎ニ一人ツ、何人トカニ釜一人 ツ、何人トカ〕
揚 ケ 返 シ 人	〔直揚ニ付ナシトカ何十何人トカ〕
現 業 役 員	〔教師何人檢査人何人絲結何人齒配何人トカ〕
口 出 シ 符	〔カルカヤノ根トカモロコシガヲトカ舶來品トカ〕

大罎ノ寸法	「何尺何寸廻リ」			
四百回(デニール)	「一號ハ十二トカニ號ハ幾ツ三號ハ幾ツ」			
坐繰製絲法	「則チ左ノ表面ノ如シ」			
工女ノ人員	「八人トカ十八トカ但一家ニ集ル人数ヲ云」			
口出ノ筈	「モロコチンガラトカ竹箸ヲ代用トカ」			
楊ケ罎ノ寸法	「何尺何寸廻リ」			
製絲計算	「此項ヘハ計算コ係ルコトヲ記スヘシ」			
簡目	年度	十五年	十六年	十七年
元蘭代一圓ニ付	「何十何匁取	全	上	全
絲目	「男何人 女何人」	全	上	全
使役男女ノ數	「男何人 女何人」	全	上	全
使役男女總計一ケ月ノ給料	「男何圓 女何圓」	全	上	全
一等二等三等工女一ケ月ノ給料	「一等何圓 二等何圓 三等何圓」	全	上	全
一人コ付		全	上	全

生絲百斤ニ係ル製造入費	「何百何拾圓	全	上	全	上
新繭ヨリ新繭迄一ケ年ノ製絲高	「何千何百斤	全	上	全	上
一週年就業ノ日數	「何百日	全	上	全	上
賣上代價	「何千何百圓	全	上	全	上
賣先	「横濱カ桐生カ西京カ或ハ歐米直賣カ」	全	上	全	上
與斗絲賣上代價	「何百何拾圓	全	上	全	上

「商標アル者ハ一葉ヲ附シ差出スヘシ」
 業務沿革總説 附出品主履歴

「此項ヘハ開業ヨリ現今迄 譬ヘハ明治何年何月社中幾名相謀リ上州富岡ノ蒸瀝ノ沿革盛衰ヲ記スヘシ」
 機械或ハ奥州二本松ノ製絲器械ヲ摸シ水車ヲ用ヒ器械ヲ裝置ス當初ハ工人何名ニシテ其技業熟練ナラサリシカ何年某氏ノ教授ニ依リ大ニ進歩シ翌何年ハ百斤ノ價格何程ニ販賣シ得ル線絲ヲ製スルニ至ル又何年何ノ誰發明ヲ以テ器

械ヲ改補シ或ハ加巧シ一層便益ヲ得社中ノ利益月ヲ逐テ増加シ現社員何名ニ
 至ル尙明年ニ至リ何々ノ目的ヲ以盛業ヲ圖ル云々又起業ノ目的ハ社中某ノ資
 本ヲ專用シ以テ本業ヲ營マント謀リシニ何年何月某何々ノ事故ニ係リテ脱社
 シ或ハ何年ハ非常ノ乾水ニテ氷車ノ運轉ヲ中止シ甚キ損毛ヲ招キ困難ヲ極
 ムルニ際シ社中某ノ奮發或ハ誰ノ助力ヲ以テ何年ニ至リ漸ク回復スルヲ得爾
 來云々又余カ家代々製絲ヲ以テ業トスル既ニ何年其間何世ニ於テ何々ノ發明
 ナ爲シ大ニ業務ヲ擴張ス爾來何年ノ頃何々ノ事故ニ依テ一回衰狀ヲ呈シ何年
 ニ至リ何々ノ方策或ハ勉勵ヲ以テ回復シ現今何々ノ景況云々又博覽會若クハ
 共進會ニ於テ褒賞ヲ受ケテ事アラハ併記スヘシ
〔以上ノ例文ニ準據シ文章ノ巧拙ニ拘ハラヌ成文詳細ニ
 記スヘシ〕

前書解説ノ件々相違無之候也

出品主

年月日

何之誰印

前書之通相違無之依テ保證仕候也

何府下何國何郡何町 區長或ハ戶長

何之誰印

府縣委員

官姓名印

「第何區第何類」

〔用紙半紙〕

出品解説

出品主 何府下何國何郡何町何番地族籍職業

何之誰

「號四第式書」

出 品	「何品」
數 量	「何品ノ數量」
代 價	「賣價及ヒ原價(幾個以上ハ賣價幾割ヲ減スルノ額ハ其割合ヲモ記スヘシ)」

官令全集

太政官布達

百十八

產地	「府縣國郡區町村番地」
工場	「地所建物ノ廣狹等」自宅ニテ製造シ別ニ工場ヲ設ケサル者ハ本項ヲ省キテ可ナリ」
器械	「多寡大小馬力用法等」製作ノ地名人名及ヒ購入代價ノ明カナルモノハ之ヲ記スヘシ」
人夫	「職工ノ多寡男女及ヒ給料等」職工ノ外別ニ掛員等アラハ之ヲ記スヘシ」
原料	「種類產地及ヒ購入代價等」精煉調和等ヲ要スルモノハ其手續ヲ記スヘシ」
費材	「薪木石炭等ノ區別及ヒ其購入代價費消高等」
製法	「製造上一切ノ手續」殊ニ製造ノ時間數量及ヒ原料使用ノ割合等ヲ詳カニ記スヘシ但秘法ハ記スルヲ要セス」
産額	「開業ノ時ヨリ出品ノ時迄毎年ノ製造高」
販路	「賣捌先キノ地方及ヒ輸送額」外國へ輸出スルモノハ成ルヘシ其輸出高ヲ記スヘシ」
傳記	「開業年月日及ヒ辛勞功績其他經歷沿革等」古人ト雖トモ出品ニ對シテ功勞等アル者ハ之ヲ記スヘシ」
前書解説ノ件々相違無之候也	
年月日	出品主
	何之誰印

前書之通相違無之依テ保證仕候也

何府下何國何郡何町區長或ハ戶長
何之誰印

府縣委員 官姓名印

○第三拾六號 十一月九日 農商務卿連名

官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキハ第三種郵便物ト爲シテ取扱ヒ其冊子ト爲シ又ハ本紙ノ重量ニ超過シタル附録ハ第四種郵便物ト爲シテ取扱フヘシ

右布達候事

○第三拾七號 十二月十二日 大藏卿連名

本年十二月 第四拾壹號布告ヲ以テ追加相成候煙草印紙ノ儀ハ追テ發行相成候マテ現在ノ煙草印紙ヲ以テ取交相當ニ貼用スヘシ

右布達候事

○第三拾八號

十二月十八日

海軍卿連名

海軍志願兵徵募規則別冊ノ通之ヲ定ム

右ノ通候事

海軍志願兵徵募規則

第一條 海軍兵員タランコトヲ志願スル者ハ本則ニ照シテ之ヲ徵募ス但軍樂隊ハ別ニ規則ヲ設ク

第二條 志願兵ノ服役ヲ別チテ現役及ヒ豫備役トス

現役年期卒ニ在テハ長期ヲ十個年短期ヲ七個年トシ准卒ニ在テハ總テ三個年トス
豫備役ハ現役長期ヲ終リシ者ヲシテ二個年間短期ヲ終リシ者ヲシテ五個年間之ニ服セシム

准卒ニ在テハ豫備役ナシ

第三條 卒ニ徵募スル者ハ年齢十七歳ヨリ二十五歳迄ノ者ヨシテ其職名ノ大別ハ左ノ如シ

水兵、火夫、職工、看病夫

第四條 准卒ニ徵募スル者ハ年齢十五歳ヨリ四十歳迄ノ者ニシテ其職名ハ左ノ如シ

裁縫夫、造靴夫、守燈夫、剃夫

廚宰介及ヒ諸廚宰

割烹手介、割烹夫及ヒ諸割烹手

諸從僕及ヒ諸仕丁

第五條 卒ノ年齢ハ第三條ニ掲ケル如シト雖モ左ニ掲ケル者ハ出願スルコトヲ得

- 一 十五歳以上コシテ體格強壯ナル者但十七歳ニ滿タサレハ服役年數ニ算入セス
 - 二 三十五歳未滿コシテ西洋形船舶或ハ造船所等ニ從事シ其技藝ニ熟達スル者
 - 三 三十五歳未滿コシテ府縣立商船學校ノ卒業證書ヲ所持スル者
 - 四 前二項ノ者ハ直ニ下士ニ任ヌルコトアリ
- 第六條 水兵火夫ニ徵募スル者ノ身幹ハ五尺以上トス但十七歳未滿ノ者ハ四尺九寸以上トス

第七條 豫備役ニ入ル者ニハ其證書ヲ附與シ常ニ家居ルヲ產業ヲ營マシメ戰時或ハ事變ニ際シ之ヲ召集ス

第八條 卒ニシテ現役ヲ終リ尙一個年以上ノ再役ヲ出願スル者ハ之ヲ許可ス但現役十二年ニ滿ル者ハ豫備役ニ服セシメス

第九條 准卒ニシテ兵役ヲ終ル者ハ尙一個年以上ノ再役ヲ出願スルコトヲ得

第十條 現役中技藝ニ熟達シ行狀方正且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第十一條 現役中ハ食料被服ヲ官給シ且相當ノ日給ヲ與フ

第十二條 現役中ハ卒ノ家族アル者ニ限リ其扶助金トシテ一個月壹圓七拾五錢宛ヲ給ス其金額ハ每三個月ニ海軍省ヨリ各地方廳ヲ經テ其家族ニ下付スルモノトス

第十三條 服役年期中ハ現役豫備役ヲ論セス何等ノ事故アルモ免役出願ヲ許サス

第十四條 現役年期己ニ滿ル者ト雖モ戰時若クハ事變ノ際或ハ航海中ハ其期ヲ延スコトアル可シ此場合ニ於テハ其延期日數ヲ豫備役年期ヨリ除算ス

第十五條 徵募ノ地方及ヒ其人員等ハ徵募ヲ要スルトキ録メ海軍卿ヨリ其地方廳ニ

達ス可シ但准卒ハ臨時鎮守府或ハ艦船營ヨリ徵募スルモノトス

第十六條 地方廳ハ其違背ニ記載スル日限迄ニ本籍寄留ノ別ナク志願人ヲ調査シ其人員ヲ鎮守府ニ通牒ス可シ

第十七條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ然レトモ居住ノ地ニ親族或ハ後見人ナキトキハ其地ニ本籍アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第十八條 身元引受人ハ第一號書式ノ願書ニ志願人ノ履歷書ヲ添ヘ管轄地方廳ニ差出シ該廳ハ其願書正副共ニ巡回募兵使ニ出ス可シ但准卒ハ身元引受人ヨリ直ニ鎮守府或ハ艦船營ニ出ス可シ

第十九條 左ニ掲グル者ハ兵役ヲ出願スルコトヲ許サス

刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

公權停止中ノ者

重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第二十條 募兵官員及其職務ハ左ノ如シ

募兵使

海軍佐官或ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツ府縣ニ派出シテ兵員徵募ノ事務ヲ掌ル

募兵副使

海軍尉官ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ヲ補助スル事ヲ掌ル但時宜ニ因リ之ヲ欠クコトアリ

募兵醫官

海軍軍醫ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ志願人ノハ幹體格ヲ検査スル事ヲ掌ル

募兵書記

海軍下士或ハ十等以下ノ軍屬ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ諸記録ノ事ヲ掌ル

第二十一條 地方長官ハ屬官ナシテ管内兵員徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第二十二條 郡區長及ヒ戶長ハ其郡區町村内兵員徵募ニ關スル事ヲ掌ル可シ

第二十三條 募兵使ハ府縣屬官及ヒ郡區長ト商議シ豫メ検査ノ場所及ヒ日割人員等

ヲ定メ戶長ヲ經テ志願人ニ出頭ヲ命スヘシ

第二十四條 志願人ノ検査ハ府縣屬官或ハ郡區長ノ立會ヲ要ス但郡區長事故アルト

キハ其書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二十五條 検査合格ノ者コハ募兵使ヨリ立會ノ府縣屬官或ハ郡區長ヲシテ第二號

書式ノ採用證書ヲ附與セシム

第二十六條 検査合格ノ者ニ採用證書ヲ附與シタルトキハ戶長ヨリ第三號書式ノ本

入戶籍明細書ヲ出サシム其用紙ハ募兵使ヨリ下附ス

第二十七條 寄留地ニ於テ採用スル者ハ募兵使ヨリ其旨本籍ノ地方廳ニ通知シ該廳

ハ本人所管ノ戶長ヲシテ第二十六條ニ掲ケル入戶籍明細書ヲ出サシム募兵使或ハ鎮

守ニ送附ス可シ

第二十八條 採用ノ兵員ハ募兵使攜帶ノ誓約簿ニ各自記名捺印ス可シ

第二十九條 合格ノ者所要ノ人員ニ超過スルトキハ抽籤法ヲ以テ當籤者ヲ採用ス

第三十條 抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムルモノトス但便宜ニ因リ一名乃至三名ヲ抽籤

總代ト爲スコトヲ得

第三十一條 検査呼出ニ際シ病氣或ハ父母ノ重病等ノ爲メ一時出頭シ難キ者或ハ之カ爲メ願書却下ヲ請フ者ハ其事實ヲ詳記シ戸長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使ニ申出其處分ヲ受ク可シ

第三十二條 徵募ノ兵員各地發程ノ期限ハ募兵使ヨリ達ス可シ府縣屬官或ハ郡區長ハ府縣或ハ郡區毎ニ其兵員ヲ便宜ノ場所ニ集合セシメ其内一名若クハ二名ヲ取締ト爲レ同時ニ發程セシム可シ

第三十三條 疾病其他已ムテ得サル事故ニテ發程シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ疾病者ハ醫師ノ診斷書戸長ノ證印ヲ受ケ郡區長ニ經テ募兵使或ハ鎮守府ニ届出可シ

第三十四條 徵募ノ兵員各自住居ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ官給トス検査ノ場所ヘ往復並ニ滞在等ノ費用ハ總テ自辦タル可シ

第三十五條 現役中公務ニ因リ傷痍疾病ヲ受ケ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ海軍恩給令ニ照準テ相當ノ恩給ヲ與フ

第三十六條 現役中傷痍疾病ニ罹ル者ハ海軍病院ニ入レ治療セシメ若シ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ上旅費ヲ給シ歸郷セシム但服役實期十一年以上ノ者ハ第三十五條ニ同シ

第三十七條 現役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等非常ノ事故アリ一時已ムテ得スシテ父母又ハ親族等ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ郡區長ノ與書證印ヲ受ケ本入ノ所轄廳ニ届出ルトキハ詮議ノ上往復ヲ除キ二週日以内ノ歸省ヲ許ス其旅費ハ自辦タル可シ但二等若水兵若火夫ハ本文ノ限ニ在ラス

第三十八條 現役中其職務勉勵ノ者ニハ滿三年毎ニ慰勞金ヲ下賜ス但其現金ハ免役再役退役若クハ下士ニ昇級ノトキ下附ス

第一號書式 用紙美濃紙

海軍兵員願

何府何國何郡何町何番地 寄留者ハ寄留地モ何縣何國何區何村何番地 明細ニ記ス可シ
華士族平民

何年何月何日於
何國何郡何町
何區何村生

何某男或ハ弟又ハ何々
何 某

年齡何年何月何年何ヶ月

右ノ者何個年期海軍水兵(火夫或ハ何々)志願ニ付御檢査ノ上御採用相成候様其筋ニ
御申立被下度此段奉願候也

何府何國何郡何町何番地
何縣何區何村何番地

華士族平民

右何某父或ハ兄又ハ何々

身元引受人 何 某印

右戸長

何 某印

前書之通相違無之候也

年月日

何府知事 何某殿
何縣令

前書願出ニ付本人檢査ノ上御取捨有之度候也

年月日

何府知事 何 某印
何縣令

海軍募兵使

御中

第二號書式

何府何國何郡何町何番地
何縣何區何村何番地

華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何 某

右何個年期ヲ以テ海軍水兵(或ハ何々)ニ採用候事

海軍募兵使

海軍何官何某印

年月日

第三號書式

戶籍明細書

本管族籍

氏名 肩書ニ戸主カ二三男カ
養子カ明記スヘシ

出生ノ年月日

生國地名

本籍住所

寄留住所 全戸カ單身カ
明記スヘシ

宗門 神葬ハ神道ト
記スヘシ

家族人名及其誕辰 父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ記ス
但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ

父 何年何月何日生 氏名 母 同上 氏名 弟 同上

姉 何年何月何日生 氏名 妹 同上 其他右ニ準シ

前書之通知違無之候也

年月日

右戸長何 某印

○第三十九號

十二月二十五日

大藏卿連名

明治十六年六月 第六拾八號布達ヲ以テ改定煙草稅則施行前既ニ裝盤セル製造煙草ハ本年
限リ其裝置ノ儘賣捌クコトヲ得セシメ候處煙草營業人ニシテ右煙草販賣殘餘ヲ所持
スルモノハ明治十七年六月三十日ヲ限リ尙ホ賣捌クコトヲ得

右布達候事

○第四拾號

十二月廿八日

大藏卿連名

本年 本 第四拾壹號ヲ以テ煙草稅則中追加ノ餉布告候ニ付テハ該印紙別紙見本ノ通知
定ム

右布達候事

〔見本畧之〕

○第四拾壹號

十二月廿八日

大藏卿連名

明治十五年九月 第九拾八號同年十二月 第二拾五號及ヒ本年五月 第九拾壹號布達長野縣下飯山第
二十四大阪府下大阪第百二十六及ヒ福島縣下須賀川第百八ノ三國立銀行發行紙幣引

官令 官署

大藏官布達

○百廿五

換期限ノ義今般更ニ明治十八年十二月三十一日迄延期ス
右布達候事

○第四拾貳號

十二月廿八日

大藏卿連名

今般大坂府下大坂第二十六國立銀行鋪店申付候ニ付其發行紙幣自今通用不相成候因
テ右紙幣引換方ノ儀ハ總テ大藏省ニ於テ負擔シ國立銀行大藏省爲換方及ヒ國庫金取
扱所ヲテ取扱ハセ候條右紙幣所持主ハ來ル明治十八年十二月三十一日限リ國立銀
行大藏省爲換方又ハ國庫金取扱所へ申出引換ヲ請フヘシ若シ期限ヲ過キ申出ル者ハ
如何ナル事情アルモ一切引換サルヘシ
右布達候事

明治十六年官令全書

○太政官達之部

○第壹號

一月四日

官省院廳府縣

叙勳條例別紙之通相定候條此旨相達候事

叙勳條例

第一條 叙勳條例ハ文武官ノ勳勞アル者ヲ叙シ及ヒ進級セシムルノ例ナリ

但臨時勳功ニ依テ叙スルハ本例ノ限ニアラス

第二條 文武官數年勳勞アルモノハ其成績ヲ勘査シ左表ニ照シテ勳等ニ叙ス其初叙
勳任官ハ勳三等奏任官ハ勳六等判任官以下ハ勳八等ヨリニ尙ホ勳勞年數ヲ累サス
ルニ由リ進級スルヲ得然レドモ判任官ハ十四等官並十四等相當官以下ハ勳六等
ニ進ムヲ得ス奏任官ハ七等官并ニ七等相當官以下ハ勳三等ニ進ムヲ得ス勳任官ハ
三等官并ニ三等相當官ハ勳一等ニ進ムヲ得ス○大臣參議諸省卿參事院元老院議長

陸海軍大將ノ勳一等ニ叙スルハ進級年例ノ限リニアラス(陸海軍下士ノ初叙ハ滿十年以上トス)

初叙并ニ進級例

	勳一等	勳二等	勳三等	勳四等	勳五等	勳六等	勳七等	勳八等
勳任	滿十年以上	滿五年以上	滿五年以上					
奏任			滿七年以上	滿五年以上	滿五年以上	滿十二年以上		
判任以下						滿七年以上	滿六年以上	滿廿二年以上

第三條 臨時勳功若クハ特旨ニ依テ叙セラレタル者モ本例ニ依リ進級セシム
年金ヲ受領スルモノハ別段ノ恩命アルコト非サレハ引續キ前級ノ年金ヲ賜フ

第四條 四等以下ノ勳章ヲ有スルモノ勅任宣トナリ七等以下ノ勳章ヲ有スルモノ奏

任官トナリタル時ハ進級年數ノ五分ノ一以上ニシテ勳三等又ハ勳六等迄進級スルヲ得

第五條 文武官ノ勳等ニ叙スヘキ勳勞者アル時ハ各廳ニ於テ本人ノ履歷明細書ヲ作り其長官ノ評認狀ヲ副ヘ毎年一月又ハ八月限リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ
但地方官ノ叙勳スヘキ者ハ内務卿ヨリ之ヲ申牒スヘシ

第六條 賞勳局總裁ハ各廳ノ申牒ヲ檢閲審査シ議定官ノ會議ヲ開キ其當否ヲ論定シ以テ上奏ス

第七條 勳章授與式ハ毎年四月十一月ノ二回ニ執行ス
但臨時叙勳ハ此限ニアラス

○第二號 一月廿三日 府縣 札幌根室沖繩ノ三縣ヲ除ク
陸海軍兵事ニ關スル事務取扱ノ爲メ自今兵事課ヲ置キ俸給トシテ年額金六百圓增加
候條判任官適宜増員可致此旨相達候事
但本年度ノ後八月割ヲテ以大藏省ヨリ可受取事

○第三號

一月廿四日

官省院廳府縣

明治十一年(三月)第十號達第一項へ左ノ但書追加候條此旨相達候事

但後備軍輜員并ニ退職或ハ罷役ニシテ文官ニ任スル者ハ其文官ノ禮服ヲ着用スルモ妨ナシ

○第四號

一月廿五日

官省院廳府縣

沖繩縣人民ニ限リ徒刑流刑ニ處セラレタルモノハ同縣下八重山島ニ發配スルモ得ヘシ此旨相達候事

但因人取扱方ハ舊慣ニ因リ沖繩縣令之ヲ管理スヘシ

○第五號

一月廿六日

官省院廳府縣

長崎縣對馬國下縣郡巖原村へ同縣支廳設置候條此旨相達候事

○第六號

二月九日

官省院廳府縣

大藏卿松方正義ヨリ明治十年度歲出入決算報告書ヲ上呈ス乃チ會計檢査院ニ於テ其計算ヲ審査セシメ以テ其確實ナルヲ証認ス因テ爲心得相達候事 (報告符啓ス)

○第七號

二月十三日

官省院廳府縣

武官官記及職記式改定ノ儀別紙ノ通陸海軍兩省へ爲心得相達候條此旨相達候事

各通
陸軍省
海軍省

武官官記及職記式別紙ノ通改定候條此旨相達候事

但從前文官ヲ兼任スル武官ノ官記及現役武官ノ職記ハ總テ改定ノ式ニ準據スヘキ儀ト心得ヘシ (別紙畧之)

○第八號

二月十四日

警視廳府縣

明治十四年(四月)第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元亦貧ニシテ資力ナキトハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時宜ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

○第九號

二月十六日

官省院廳府縣

明治九年(三月)第三十號明治十三年(四月)第二十八號廢止候條此旨相違候事
 ○第拾號 二月廿一日 府縣

明治十一年(七月)第三拾二號達府縣官制中郡長ノ條填ヨリ左ノ通改正候條此旨相違候事

郡長(八等相當)一人

俱特別ノ證識ヲ以テ委任トナスヲ得

第一郡長ノ俸給左ノ如シ

- 一等給 八拾圓
- 二等給 七拾圓
- 三等給 六拾圓
- 四等給 五拾圓
- 五等給 四拾五圓
- 六等給 四拾圓

七等給 三拾五圓
 八等給 三拾圓

○第拾一號 二月廿八日 府縣

明治十四年(八月)第七拾五號達別紙中左之通追加候條此旨相違候事

追加 函館出張所 函館縣 札幌縣 根室縣

○第拾貳號 三月三日 官省院廳府縣

福岡縣下筑後國三池郡下里村へ已決監ヲ設置シ三池集治監ト名稱候條此旨相違候事

○第拾三號 三月十五日 官省院廳府縣

農商務省中技術等級并月給別表左ノ通相定候條此旨相違候事

大技長	權大技長	少技長	權少技長	一等技手	二等技手	三等技手
一級 三百五十圓	三百圓	二百五十圓	二百圓	六拾圓	五拾圓	四拾五圓
二級 三百圓	二百五十圓	二百圓	百五十圓	百五十圓	百二十圓	百圓

三級	二百五十圓	二百圓	百七拾圓	百廿五圓	圓迄	圓迄	迄
四級			百五拾圓	百圓			

十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	十六等	十七等	等外
四等技手	五等技手	六等技手	七等技手	八等技手	九等技手	十等技手	技生
四拾圓ヨリ九拾圓迄	三拾五圓ヨリ八拾圓迄	三拾四圓ヨリ七拾圓迄	二拾五圓ヨリ六拾圓迄	二拾圓ヨリ五拾圓迄	拾五圓ヨリ四拾圓迄	拾二圓ヨリ三拾圓迄	六圓ヨリ廿五圓迄

○第拾四號

三月十九日

官省院廳府縣

長崎縣原支廳ニ支廳長ヲ置キ縣令代理ノ任ヲ以テ其委任スル所ノ條款ニ依リ部内ノ行政事務ヲ總理セシム

○第拾五號

三月廿二日

官省院廳府縣

國庫出納條規別冊ノ通相定候條此旨相違候事

國庫出納條規

- 第一條 國庫ハ大藏卿所管ノ金錢ヲ藏置スル所トス
- 第二條 常用準備ノ出納ハ大藏卿收支ノ傳票ヲ發シ出納局長ヲ以テ執行セシム
- 第三條 大藏卿ノ傳票ハ番號ヲ附シ其番號ハ各廳會計上通用スルモノトス
- 第四條 大藏卿ハ便宜ニヨリ各地ニ出納局出張所又ハ大藏省爲據方ヲ設置シ金錢ノ出納ヲ爲サシム其方法ハ大藏卿之ヲ定ム
- 第五條 收入金ノ受取證書ハ其納主ニ對シ出納局長之シテ發シ支出金ノ受取證書ハ出納局長ニ宛テ其受取主ニシテ差出サシム以テ收支ヲ了シタルノ際トス
- 第六條 收入スヘキ現金ハ出納局及同局出張所又ハ大藏省爲據方ニ於テ預リ納主ニ預リ證書ヲ交付シ納主ニハ該預證書ヲ以テ納付ノ手續ヲナサシム
- 第七條 大藏卿ハ國庫金錢管守ノ方法及ヒ之レヲ各廳ニ委託スル方法ヲ定ム
- 第八條 大藏卿ハ出納局長ニ命ジ常ニ金錢ノ種類ヲ區別シ置キ一週間毎ニ現在高ヲ太政官ニ報告スヘシ

第九條 大藏卿ハ毎月末若干日ヲ剩シ收支ノ傳票ヲ停止スルコトヲ得

○第拾六號

三月廿四日

府縣

明治十年月十一 第七拾九號布告第一條但書ノ場合ニ於テハ債主ニ其未納稅アレバ通
告シ債主之ヲ辨納セザル時ニ公賣ヲ行フヘキ儀ト可心得此旨相違候事

○第拾七號

三月廿六日

官省院廳府縣

本年第壹號布告ノ旨ニ依リ金銀木杯又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相違候
事

金銀木杯金圓賜與手續

第一條 褒章ヲ賜フヘキ者ニ金銀木杯又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキ
ハ其等差左ノ如ク

定例

- 第一等 木杯三組 品格ヲ三又ハ金拾圓ニ多カラス六圓ニ少カラス
- 第二等 木杯三組 品格ヲ三又ハ金五圓ニ多カラス貳圓五拾錢ニ少カラス

第三等 木杯壹個 品格ヲ三又ハ金貳圓ニ多カラス壹圓ニ少カラス
但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特例

第一等 金杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二等 銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二條 公益ノ爲メニ金銀財產等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ
併セ賜フトキハ其等差左ノ如ク

寄附金額又ハ價格

拾圓未滿

褒狀

拾圓以上百圓未滿

木杯壹個

但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ

百圓以上五百圓未滿

木杯三組

但三百圓未滿ハ五拾圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ

五百圓以上貳千圓未滿

銀杯壹個

但千圓未滿ハ貳百五十拾圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

貳千圓以上五千圓未滿

銀杯三組

但千圓毎ニ品格ニ等差アリ

五千圓以上壹萬圓未滿

金杯壹個

但貳千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

壹萬圓以上

金杯三組

第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモノトス

褒狀又ハ木杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府知事縣令管理施行スルモノトス

但勅委任官并從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ニ賜フヘキトキハ

第四條ニ準據スヘシ

第四條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者アルト

キハ警視總監府知事縣令ヨリ内務卿又ハ農商務卿ニ具申シ内務卿又ハ農商務卿ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

賞勳局總裁ハ其申牒ニ據テ勅委任官并從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ニハ之ヲ直授シ其他ノ者ハ内務卿又ハ農商務卿ヲ經由シ警視總監府知事縣令ヲシテ之ヲ傳達セシム

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クヘキ者ニシテ其未ダ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ授與セス

○第拾八號

四月七日

官省院廳府縣

地方巡察條規左ノ通相定候條爲心得此旨相違候事

地方巡察條規

第一條 行政官吏服務紀律第十二條ニ從ヒ臨時巡察使ヲ地方ニ派遣スヘシ

第二條 巡察使ハ勅任官中ヨリ臨時特選ヲ以テ之ニ充ツ

官令 五 書

第三條 全國ヲ五部ニ分テ各部巡察使ヲ派遣ス

第四條 巡察使ハ法律規則ノ實施行政事務ノ舉否利弊ヲ驗視シ官吏服務紀律ニ照シテ功過ヲ檢シ並ニ治蹟ヲ察スルヲ以テ務トス

第五條 巡察使ハ各官署ニ臨ミ主任官ニ就テ事務ノ狀況ヲ訪問シ其簿冊文書等ヲ檢スルコトアルヘシ直ニ其行政處分ニ干預スルコトヲ得ス

第六條 巡察使總鎮守府又ハ營所アル地方ニ到ルトキハ事宜ニヨリ行政事務ト軍務トノ關係ニ付事狀如何ヲ訪問スルコトアルヘシ

第七條 巡察使ハ其巡察檢視スル所ノ事狀ヲ具ヘ太政大臣ニ上申スルヲ以テ其職ヲ終ル者トス

第拾九號

四月十六日

官省院廳府縣

皇居御造營ニ付賭獻納願ノ儀內務省ニ於テ管理候處自今宮內省管理ニ被附候條此旨相達候事

○第貳拾號

五月二日

官省院廳府縣

內務省中技術等級並月給別表ノ通相定候條此旨相達候事

級四	級三	級二	級一	技師	一等	四等
圓貳百	圓貳百	圓貳百	圓貳百	技師	二等	五等
拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	技師	三等	六等
百圓	百圓	百圓	百圓	技師	四等	七等
		マ圓	マ圓	技師	一等	八等
		マ圓	マ圓	技師	二等	九等
		マ圓	マ圓	技師	三等	十等
		マ圓	マ圓	技師	四等	十一等
		マ圓	マ圓	技師	五等	十二等
		マ圓	マ圓	技師	六等	十三等
		マ圓	マ圓	技師	七等	十四等
		マ圓	マ圓	技師	八等	十五等
		マ圓	マ圓	技師	九等	十六等
		マ圓	マ圓	技師	十等	十七等
		マ圓	マ圓	技師	技生	等外

○第貳拾壹號

五月四日

官省院廳府縣

陸軍武官々等表別表之通改正候條此旨相達候事

(別表界之)

○第貳拾貳號

五月十日

官省院廳府縣

今般太政官ニ於テ官報ヲ發行候ニ付左ノ條件相違候但シ發行ノ期日ハ追テ可相違事

第一條 太政官中ニ文書局ヲ置キ官報編輯ノ事ヲ管掌セシム

第二條 官報ハ別紙ニ記シタル事項ヲ掲載スヘキニ付各官廳ニ於テ主任ヲ定メ官報

ニ掲載スヘキ書類ヲ取經メ文書局ニ當テ送付スヘシ

第三條 各般ノ事項一時ニ掲載スルコト能ハサルトキハ其緩急ヲ量リ順次ニ掲載シ

其大部ニ渉ル者ハ數日ニ分載スル等都テ文書局長ノ意見ニ任ス

第四條 官報ハ別記定價ヲ以テ驛遞局ニ於テ販賣セシムルニ付直チニ同局ニ就テ購

求スヘシ

第五條 各官廳ノ廣告ハ官報ヲ以テスヘシ但シ東京ヲ除キ其他ノ地方ハ本條ノ例ニ

依ラサルコトヲ得

第六條 官廳ノ廣告其官報ヲ以テスルノ外同時他ノ新聞紙ニ掲載スルハ各官廳ノ便

宜ニ任ス但シ其官報ヲ以テスル者ハ廣告料ヲ要セス

第七條 左ニ掲クル者ハ官報ヲ購讀スヘキ義務ヲ有スルモノトス但シ各官廳ハ其定

額ヲ以テ購求スヘシ

第一

省院廳府縣裁判所警察署

參謀本部監軍本部近衛局鐵道營所鎮守府憲兵本部及屯營

官立學校

第二

上長官以上ノ武官奏任以上ノ文官及郡區長

官報

一 詔勅

二 賞勳

三 叙任

四 官令

布告

布達

- 五 達 公示ヲ妨ケサル官省院廳及東京府ノ達
- 六 告示 官省院廳及東京府ノ告示
- 七 官廳廣告
- 八 雜件
 - 行幸行啓觀講
 - 參事院回答并審理
 - 諸官廳伺指令
 - 軍艦出入
 - 官吏轉職出入等
 - 雜事
- 九 外報
 - 公使領事報告

外國新聞抄譯

- 十 說明正誤
- 十一 學藝教育ニ關スル事項
- 十二 農工商業及山林ニ關スル事項
- 十三 統計報告
- 十四 氣象報告
- 十五 漁船出入
- 十六 廣告

官報定價

一 壹部定價 配達郵送 費トモ 金三錢

○第貳拾三號

五月廿二日

官省院廳府縣

今般官報發行候ニ付從前官省院廳ノ達并ニ告示ノ儀ハ官報ニ登載スルヲ以テ公式トシ別ニ達書又ハ告示書ヲ發付スルコト不及候但内達ノ類ハ從前ノ通可相心得此旨相達

候事

○第廿四號

五月廿九日

府 縣

大藏省租稅局福井出張所ヲ石川縣下金澤ニ移シ金澤出張所ト改稱並盛岡青森兩出張所ヲ廢シ明治十四年(八月)第七拾五號達別紙收稅區畫中へ左ノ縣々ヲ追加候條此旨相達候事

金澤出張所

富山縣

長崎出張所

佐賀縣

鹿島出張所

宮崎縣

仙臺出張所

岩手縣

兩館出張所

青森縣

○第貳拾五號

六月二日

官省院廳府縣

明治十四年^四第三拾四號通關入料目ノ内左ノ通追加候條此旨相達候事

酒造稅中造石ノ次へ

自家用料酒鑑札料

會社稅中株式取引所稅ノ次へ

米商會所仲買人稅

株式取引所仲買人稅

○第廿六號

六月五日

官省院廳府縣

明治十六年度歲入出豫算ノ儀册別ノ通決定候條此旨相達候事 (別册零ス)

○第二十七號

六月廿二日

官省院廳府縣

官報本年七月一日ヨリ發行候條此旨相達候事

○第二十八號

六月廿三日

府縣

租稅ノ儀他ノ事務ト混同處理候地方モ有之趣右ノ最モ緻密周到畫一ノ整理ヲ要スル事務ニ付自今必ス一課ヲ設ケ專ラ該事務ニ從事セムヘシ此旨相達候事

○第二十九號

六月廿九日

官省院廳府縣

本年^五月第二十二號達中官報ニ記載スヘキ事項ハ其概目ヲ示スモノニ付實際施行ニ臨ミ其欄次節目ハ總テ文書局長ノ斟酌ニ任ス此旨相達候事

○第三十號

八月一日

官省院廳府縣

明治六年(十一月)第三百九拾三號達廢止候條此旨相達候事

○第三十一號 八月三日

官省院廳府縣

官省地第二種官用地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村協議費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各廳ノ適宜ナルヘシ
○第三十二號 八月三日 官省院局

自今各廳ニ於テ外國人ヲ雇入ノ及ヒ備繼又ハ其給料ヲ増加セントスル時ハ豫メ伺出解備又ハ給料ヲ減省スルモノハ其都度届出ヘシ此旨相達候事

但警視廳及ヒ府縣ノ分ハ主管ノ上司ヨリ伺出ヘシ
○第三十三號 八月四日 府縣


明治十年月十一日第七十九號布告第二條第二項ノ場合ニ於テ其酒類及器械本人ノ所有ニ非サルトキハ所有主ニ通告シ處分スルハ本年三月第拾六號達ノ通可心得此旨相達候事

○第三十四號 八月廿三日 官省院廳府縣

官用ノ船舶ヲ製造又ハ變更漁船ヲ帆船ニ變又ハ若クハ購求シタルトキハ別紙第一號及ヒ第二號表ニ照シ毎年一月一日調ヲ以テ其年三月三十一日限リ海軍省へ報告スヘシ此旨相達候事
(別紙)
第一號

西洋形船舶表		官省院廳府縣	
船名	何	丸	推進機
船長	何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地	寄留者ハ寄留地地方ヲ記ス	螺旋カ兩輪カ風帆カ
製造ノ年及地名	何年何月何所ニ於テ製造		
船質	木製カ 鐵製カ		
長	量噸甲板最大ノ長サ	何丈何尺何寸	
幅	内法ノ最大ノ幅	同	

定 乘 場	走 力	炭 所 料	容 炭 積 庫	馬 力	及 湊 船 之 形 狀	機 關 種 類	櫓 數	登 海 噸 數	載 貨 噸 數	深
何 所	尋 常 速 力 (一 時 間) 拾 何 里 全 速 力 拾 何 里	尋 常 速 力 一 晝 夜 何 百 何 十 何 斤	尋 常 速 力 何 晝 夜 分	名 何 千 何 百 何 十 何 馬 力 實 何 千 何 百 何 十 何 馬 力	角 カ 圓 カ 何 個 カ	單 機 關 カ 複 機 關 カ 高 壓 カ 低 壓 カ	何 本 裝 類 「バ ー ト」 カ 「ブ リ ッ ク」 カ 「ス ク ー ー ナ ル」 カ	何 千 何 百 何 十 何 噸	船 首 何 尺 何 寸 船 尾 何 尺 何 寸	船 室 ニ 於 テ 量 噸 甲 板 ニ 船 底 中 央 ノ 內 板 ニ 至 ル 深 サ 同

旗 章	
-----	--

第二號

日本形船舶表		官省院廳府縣	
五 十 石 以 上 商 船	解 漁 船 及 海 川 小 廻 船	石 分 船 數	船 長 船 數
五 十 石 以 上	四 間 未 滿	四 三 九 一 個	一 八 三 二 個
百 石 未 滿	四 間 未 滿	二 九 〇 三 〇 八 石	
二 百 石 未 滿	五 四 間 未 滿		
二 百 石 未 滿	五 四 間 未 滿		
三 百 石 未 滿	六 五 間 未 滿		
三 百 石 未 滿	六 五 間 未 滿		
四 百 石 未 滿	七 六 間 未 滿		
四 百 石 未 滿	七 六 間 未 滿		
五 百 石 未 滿	八 七 間 未 滿		
五 百 石 未 滿	八 七 間 未 滿		
六 百 石 未 滿	九 八 間 未 滿		

千八百石未滿	千七百石未滿	千七百石以上	千六百石未滿	千六百石以上	千五百石未滿	千五百石以上	千四百石未滿	千四百石以上	千三百石未滿	千三百石以上	千二百石未滿	千二百石以上	千一百石未滿	千一百石以上	九百石未滿	九百石以上	八百石未滿	八百石以上	七百石未滿	七百石以上	六百石未滿	六百石以上
二十間以上	十九間未滿	十九間以上	十八間未滿	十八間以上	十八間未滿	十八間以上	十七間未滿	十七間以上	十六間未滿	十六間以上	十五間未滿	十五間以上	十四間未滿	十四間以上	十三間未滿	十三間以上	十二間未滿	十二間以上	十一間未滿	十一間以上	十間未滿	十間以上

千八百石以上	千九百石未滿	千九百石以上	二千石未滿	二千石以上

○第三拾五號

八月廿四日

官省院廳府縣

海軍省中教官ヲ置キ其名稱等級俸給別表ノ通相定候條此旨相建候事

(別表)

海軍教官等級并俸給表	
奏	任
四等	一等教官
五等	二等教官
六等	三等教官
七等	四等教官
八等	五等教官
九等	六等教官
一等俸	二百五十圓
二等俸	二百三十圓
	二百圓
	一百八十圓
	一百五十圓
	一百三十圓
	九十圓
	六十五圓
	四十五圓

官令全書

太政官達

百卅九

三等俸 二百十圓 百六十圓 八十圓 五十五圓 四十圓

第三十六號 八月卅一日 官省院廳府縣

本年五月第貳拾號達內務省技術等級并月級表へ左ノ但書追加候條此旨相違候事
但便宜ニ依リ技師補ヲ置キ得無等判任官ニシテ三拾圓ヨリ八拾圓マテノ月俸ヲ給ス

第三十七號 九月十一日 官省院廳府縣

陸軍恩給令別冊ノ通改正候條此旨相違候事
但陸軍罷役俸並恤金令ハ廢止ス
〔別冊零ス〕

第三十八號 九月十一日 官省院廳府縣

海軍恩給令別冊ノ通相定候條此旨相違候事
但從前之海軍退隱令ハ廢止ス
〔別冊零ス〕

第三十九號 九月十三日 官省院廳府縣

本年六月第貳拾貳號布告ノ旨ニ依リ勳章年金襍費及停止取扱手續左ノ通相定候條此

旨相違候事

勳章年金襍費及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ルトキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲戒例及免黜條例ニヨリ免官シタル者

第三項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免許狀ヲ視察シタル後處刑
言渡ヲ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル者アルトキハ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿
ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀
ヲ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第五條 賞勳局總裁ハ其具狀ヲ審查シ重禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第三項ニ觸ル者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヘ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ
第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ但公訴權消滅スルカ若シハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦之ヲ申告スヘシ

○第四拾號 九月廿二日 官省院廳府縣

今般京都ニ宮内省支廳設置候條此旨相達候事

○第四拾壹號 九月廿二日 官省院廳府縣

京都宮内省支廳中左ノ職員被置候條此旨相達候事

殿掌 奏任取扱

殿部 判任取扱

殿丁 等外取扱

○第四拾貳號 九月廿二日 官省院廳府縣

奏任官及六位勳六等以上ノ輩在東京ノ外ハ新年紀元天長兩節賀表差出來候處明治十七年ヨリ京都御所ニ於テモ新年參賀式被爲行候ニ付京都住居在勤若シハ出張ノ向ハ參内拜賀ノ且紀元天長兩節宮内省支廳ヘ參賀可致此旨相達候事

○第四拾三號 九月廿二日 府縣

陵學陵丁墓掌墓丁及守丁自今宮内省ヘ被屬候條此旨相達候事

○第四拾四號 十月廿日 官省院廳府縣

海軍服制別冊ノ通改正候條此旨相達候事

(別冊略ス)

○第四拾五號

十月廿日

府縣

公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スルトキハ每一校五町歩以內無借地料使用差許候條官有地ノ內差支ナキ場所ヲ撰ニ内務省へ申出ヘシ此旨相達候事

○第四拾六號

十月廿日

府縣

電信分局及ヒ海底線陸揚庫用地ノ議ハ當分ノ内鎮道用地同様工部省限リ處分可致候條此旨相達候事

但處分ノ上内務省へ申出候儀ト可心得事

○第四拾七號

十月廿三日

官省院廳府縣

大藏卿松方正義ヨリ明治十一年度歳入出決算報告書ヲ上呈ス乃チ會計檢査院ニ於テ其計算ヲ番査セシメ以テ其實質ナルヲ証認ス因テ爲心得相達候事 (報告書略ス)

○第四拾八號

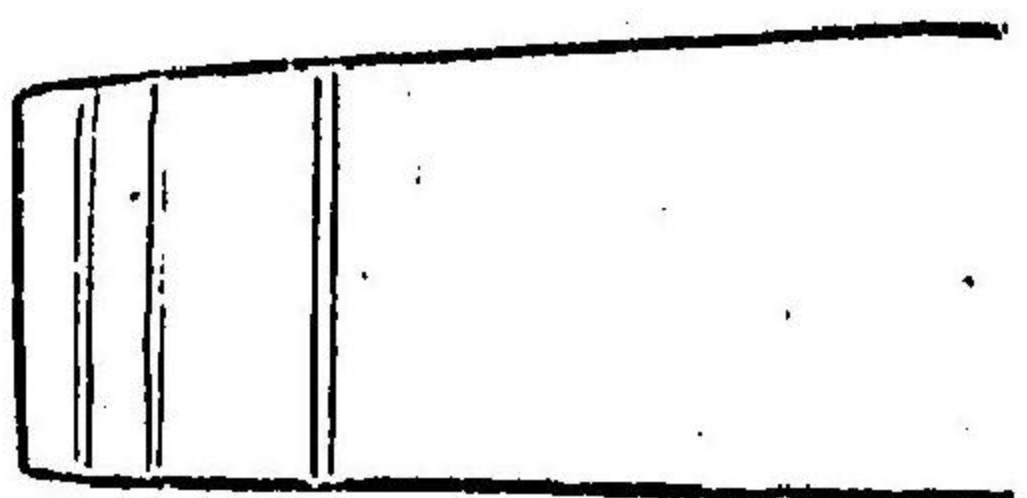
十一月七日

官省院廳府縣

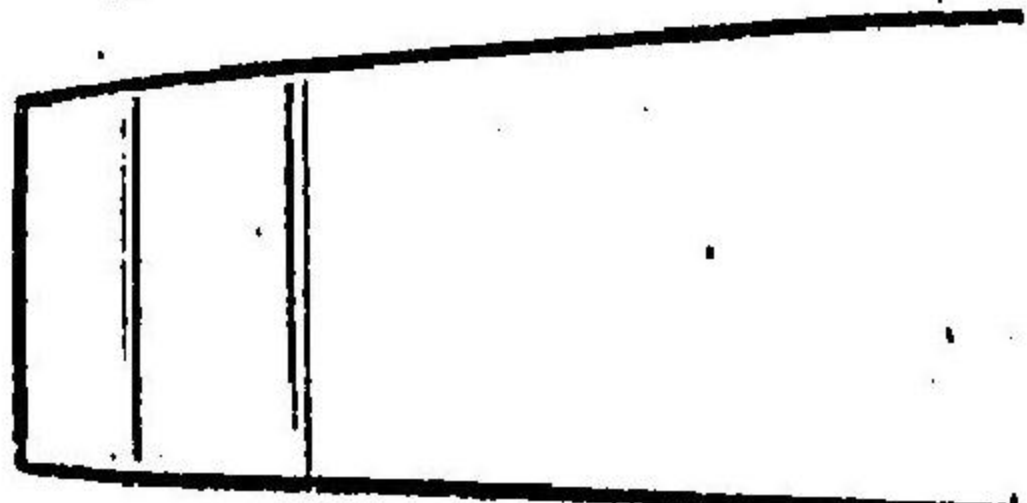
海軍省中五等六等教官大禮服飾章左ノ通相定候條此旨相達候事

五等教官

六等教官



線五厘



線無之

飾章繡色委任一般ノ例ニ從フ

○第四拾九號

十一月八日

官省院廳府縣

戶長及ヒ府縣立町村立學校職員ノ席次ハ其官等ニ依リ同等官及ヒ其官等相當ノ俸給ヲ受ル無等判任官ノ下席トス
但戶長ト學校職員ト同等ナル時ハ戶長ヲ以テ上席トス

右相違候事

○第五拾號

十一月十日

官省院廳府縣

明治八年(七月)第百三拾二號達公用土地買上規則第十一則左ノ通改正候條此旨相違候事

但府縣廳ハ此旨管下へ布達可致事

第十一則 土地買上ノ際事業ノ急施ヲ要スルトキハ特ニ其旨ヲ所有者ニ達シ三十日以上ノ期日ヲ定メ代價ヲ申出シムヘシ其期日迄ニ代價ヲ申出サルカ又ハ代價ニ付雙方見込相協ハサルトキハ更ニ建物アル地ハ三十日以上建物ナキ地ハ十日以上ノ期日ヲ定メ其期日迄ニ之ヲ引渡スヘキ旨ヲ達スヘシ但各其期日内ニ雙方共現在ノ實況及ヒ其見込ノ代價ヲ詳記シ評價人ノ意見書ヲ添へ地方官ノ認印ヲ受置クヘシ

○第五拾壹號

十一月廿四日

官省

大臣參議隨省卿ハ掌務ヲ處行スルノ便ニ備フル爲メ書記官一員又ハ二員ヲ秘書官ト

シテ專屬セシムルヲ得

右相違候事

○第五拾貳號

十一月廿六日

官省院廳府縣

明治十四年三月第十一號達憲兵條例中左ノ通改正候條此旨相違候事

〔改正條例零ス〕

○第五拾三號

十一月卅日

官省院廳府縣

自今大坂府下ニ憲兵ヲ設置候條此旨相違候事

但東京憲兵ノ内一中隊ヲ分派ス

○五拾四號

十二月三日

官省院廳府縣

月俸規則第十八條第二十二條本條及旅費定則第七章第五項第十四章第二項左ノ通改正ス

月俸規則

第十八條

一官吏職務上ノ事件ニ關シテ訴訟ノ原告人又ハ証人引合人トナリ審判中ハ月儀全額ヲ給ス其自己ニ關スル訴訟ノ原告人又ハ証人引合人トナリ缺勤ヲ爲ス者或ハ事故アリテ出仕差止ル者ハ其月十五日前後ヲ區別シ減シテ五分ノ一ヲ給ス

第二十二條

一免職又ハ奉職中病死ノ者ニハ其節ノ月俸半額ヲ以テ一ケ年ノ賜金トナシ勤續年數ニ乘シテ之ヲ給スヘシ若シ罪ヲ犯シ官職ヲ失フ者及ヒ懲戒ニ由リ免職ノ者ハ之ヲ給セス

但書従前ノ通

旅費定則

第七章

第五項 官吏罪ヲ犯シ官職ヲ失フ者及ヒ懲戒ニ由リ免職ノ者ハ歸郷旅費ヲ給セス

第十四章

第二項 往時奉職中ノ公務ニ付訴訟ノ被告人又ハ証人引合人トナリテ出廷スルトキ

モ第一項ニ準ス但刑事被告人トナルモノハ此限ニアラス
右相違候事

○第五十五號

十二月十三日

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治十三年四月第貳拾五號達廢止候條同十五年七月第拾一號達ヲ實施セサル府縣ニ於テハ水火防禦ノ爲メニ死傷セシ巡査ハ同八年一月第三號達ニ照準處分スヘシ此旨相違候事

○第五十六號

十二月十三日

官省院廳府縣

明治九年六月第六拾四號達旅費定則第八章中神官旅費等級左ノ通改正候條明治十七年一月一日ヨリ施行可致此旨相違候事

官幣小社

別格官幣社

官司

四等

國幣小社

○第五十七號

十二月十三日

官省院廳府縣

明治十五年九月第五拾五號通中官幣小社別格官幣社國幣小社官司月俸左ノ通更正候條
 明治十七年一月一日ヨリ執行可致此旨相達候事

官司月俸 拾貳圓

○第五十八號 十二月十五日 官省院廳府縣

海軍省中技術官名稱等級俸給別表ノ通改正候條此旨相達候事

海軍省技術官官等表

勅任	奏任		判任
	大匠司	少匠司	
三等	四等	五等	六等
七等	八等	九等	十等
十一等	十二等	十三等	十四等
十五等	十六等	十七等	
技監	大匠司	權大匠司	少匠司
司	匠司	司	補
師	一等師	二等師	三等師
師	四等師	五等師	工長
師	一等工長	二等工長	三等工長
師	四等工長	五等工長	匠司
師	補		

海軍省技術官月俸表

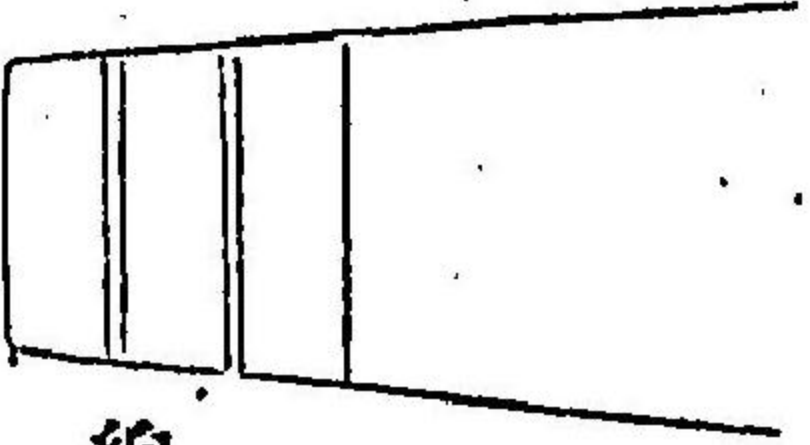
技監 大匠司 權大匠司 少匠司 權少匠司 匠司 補

上等俸	四百五十拾圓	三百五十拾圓	二百五十拾圓	二百圓	百五十拾圓	八拾圓
中等俸	四百圓	三百圓	二百三十拾圓	百七拾圓	百貳拾圓	六拾圓
下等俸	三百五十拾圓	二百五十拾圓	二百圓	百五十拾圓	百圓	四拾圓
一等師	二等師	三等師	四等師	五等師	一等工長	二等工長
六拾圓	五拾圓	四拾圓	四拾圓	三拾圓	三拾圓	二拾圓
五拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	三拾圓	二拾圓	二拾圓
四拾圓	四拾圓	四拾圓	三拾圓	三拾圓	二拾圓	拾五圓
四拾圓	四拾圓	三拾圓	三拾圓	二拾圓	拾五圓	拾二圓

○第五十九號 十二月十五日 官省院廳府縣

郡長ノヲ奏任官ノ輩大禮服飾章左ノ通相定候條此旨相達候事

奏任郡長大禮服章



線五厘 飾章縹色等奏任 一般ノ例ニ從フ

○第六十號

十二月十九日

府縣

明治五年^十月^十第三百十二號通但書中一定候迄ノ下(官船及ヒ)ノ四字ヲ追加候條此旨相違候事

○第六十一號

十二月十九日

官省院廳府縣

奏任府知事縣令ノ席次自今各官省院廳四等官ノ上席ト被定候條此旨相違候事

○第六十二號

十二月二十日

官省院廳府縣

監獄則第三十條ニ依リ監獄中ノ別房ニ留置シタル者及ヒ刑法附則第三十二條ニ依リ別房ニ留置シタル者若シ監内ノ諸則ヲ犯ストキハ監獄則第百七條ニ準據處分ス可シ此旨相違候事

○第六十三號

十二月廿一日

滋賀及沿海府縣

今般第四十五號布告候ニ付テハ雇入雇止手数料ハ大藏省へ納付可致尤右事務取扱ニ係ル費用ハ同省ヨリ別途交付候條明細仕譯書ヲ以テ同省へ受取方可申出此旨相違候事

但本文収支金額ノ議ハ明細仕譯書ヲ以テ毎三ヶ月分取纏メ翌月十日其地差立農商務省へ届出ヘ

○第六十四號

十二月廿二日

官省院廳府縣

今般修史館中ニ副總裁ヲ置キ明治十四年十二月第百八號通職制中左ノ一項ヲ追加ス

副總裁 一員

職掌總裁ニ亞リ

右相違候事

○第六十五號

十二月廿七日

官省院廳府縣

明治十年^六月^六第四拾六號同年^七月^七第五拾四號同十二年^{十二}月^{十二}第五拾六號通判事檢事判事補檢事補年俸月俸左ノ通改正候條此旨相違候事

勅任	判事	判事
	檢事	檢事
奏任	判事	判事
	檢事	檢事
判任	判事	判事
	檢事	檢事

圓八四 百千	俸當官一 年相 等	
圓五四 百千	俸當官二 年相 等	
圓五三 百千	圓二四 百千	俸當官三 年相 等
圓三 千	俸當官四 年相 等	
百二圓 圓千	圓四二 百千	俸當官五 年相 等
百千 圓五	百千 圓八	俸當官六 年相 等
圓六九 十百	圓百 圓二	俸當官七 年相 等
圓六六 十百	圓八七 十百	俸當官八 年相 等
五四 圓十	俸當官九 月相 等	
圓四 十	俸當官十 月相 等	
五三 圓十	月相 等官十一	
圓三 十	月相 等官十二	
五二 圓十	月相 等官十三	
圓二 十	月相 等官十四	

明治十六年官令全書

○內務省乙號達之部

○乙第一號

一月廿六日

庶務

虎列刺病者有之候節ハ別紙書式ニ據リ逐一取調之上每一ヶ月分取調翌月十五日迄ニ當省衛生局ニ送致可致此旨相達候事

問答ノ體ヲ上下ニ 列示シタルハ記載 コ便ナラシメタル 者コノ其法ハ例ニ ハ第一項郡區町村 トアルコト郡區村 コトテ發シテ者ナ ハ區田ノ二字ヲ塗 抹シ又某區某町ニ テ發シテ者ナレハ 郡村ノ二字ヲ塗抹 スルカ如シ他ノ項 目モ亦之ニ倣フニ (一)郡區町村番地	虎列刺病者取調書	記職ノ解 上下ニ 記載 ハ例ニ 郡區村 者ナ ハ區田 ノ二字 ヲ塗抹 シ又某 區某町 ニテ發 シテ者 ナレハ 郡村ノ 二字ヲ 塗抹ス ルカ如 シ他ノ 項目モ 亦之ニ 倣フニ
(一) 職名	郡區町村	番地
男	姓	年
女	名	
(二) 發病ハ何日何時頃ナルカ	月	日
(三) 發病ノ場所ハ如何	郡區	町村
(四) 体格ハ如何	強	弱
	午前	午後

Horizontal list of conditions (五-十七) with descriptions and status columns. Includes terms like '婚姻', '發病前', '誘因', etc.

Vertical list of conditions (十八-廿五) with descriptions and status columns. Includes terms like '家屋清潔', '飲料水', '廁所', '下水', '近傍清潔', etc.

客年(七月)當省乙第四拾一號通中左ノ通但書追加候條此旨相違候事

○乙第三號

二月五日

府縣

昨年第六十號ヲ以陸軍恩給又ハ扶助料ヲ受ケタル者氏名ヲ改メントキ取扱之儀公達相成候ニ付テハ恩給登錄寫帖裏面ヘ氏名等記載之節ハ四季金額記載ノ欄外左白ヘ左ノ書式ニ準テ可取計此旨相達候事

書式

氏名

右明治年月日 本府縣士族 平民 何某方ヘ 復籍 其他何々ニ據リ本氏ニ改メシ旨届出ニ付茲ニ証記ス

年 月 日

府長 官 名 印

○乙第四號

二月六日

府縣

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類送達ノ節戸長役場費ヲ以使丁ヘ送達賃銀替相渡候儀自今不相成候條此旨相達候事(但從前ノ指令本文ニ抵觸ノ廉ハ取消ス)

○乙第五號

二月九日

大藏卿連名府縣(函館沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)

客歲乙第七拾二號ヲ以地方稅豫算議案并精算報告書式相達候處戸數割ニ於テ等級課額ヲ設ケル時ハ該議案中ヘ記載スル儀ト心得可シ此旨更ニ相達候事

○乙第六號

二月十二日警視廳府縣(東京府沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

明治十五年第四拾一號公達ニ依リ給助例實施ノ府縣ハ十年十月當省乙第九十三號達警部巡查給與規則第十五條廢止候儀ト心得此旨相達候事

○乙第七號

二月十四日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

別紙戊第一號之通 神道副總裁 神佛各管長ヘ相達候條爲心得此旨相達候事

○乙第八號

二月廿六日

宮内卿連名 府縣

官國幣社祈年祭新嘗祭例祭之儀ハ神社祭式ノ通地方長官又ハ次官參向可致管ニ付可成的事務綜合セ參向可致尤遠隔ノ地等不得止支障有之代理參向ノ節ハ府縣官並郡區長ニ限リ候儀ト心得此旨相達候事(但府縣官及郡區長共支障ノ節ハ當日延祭爲致若シ三十日以上參向不得節ハ幣帛料等ヲ一社ニ付シ官司等ヲ以執行爲致其事由兩省ヘ詳細具狀ス)

○乙第九號

三月三日

大藏卿連名

府縣

今般第七號布告ニ付テハ郡區長ニ屬スル滿年賜金其他ノ諸給與共渾テ國庫ヨリ支辨ノ等ニ候條此旨相達候事

○乙第十號

三月廿七日

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

客年三月當省乙第九十號達刑法附則第二拾六條ニ據リ下付スル監視票裏面認印表別紙ノ通改正候條此旨相達候事(但從前調製ノ分ハ當分取交セ相用ヒ苦シカラス

尋常監視票裏面離形

認印表

月二	月一	何日出頭 付不參	疾病ニ旅行中	初	年	二	年	三	年	四	年	五	年
				十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後	十五日以前	十六日以後		

月三	月四	月五	月六	月七	月八	月九	月十	月十一	月十二

朱字 特別監視票裏面離形

○乙第十三號

四月二日

府縣（東京府ヲ除ク）

遺失物等公賣ニ係ル金額届方ノ義自今一週年度分取總メ明細書相添ヘ毎年八月三十一日限リ届出ヘシ此旨相達候事

○乙第十四號

四月六日

警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

客年（三月）當省乙第十九號達監視票旅券書式中刑法附則第二十五條ニ依リ下付スヘ

旅券被監視人姓名ノ上ヘ左ノ通追加候條此旨相達候事

刑名刑期

何年何月何日宣告

何年何月何日満期

監視何年何月

何年何月何日起
何年何月何日満

罪質犯數

○乙第十五號

四月十三日

大藏卿連名

府縣（函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

明治十三年（十一月）第五十號布告但書ニ依リ公儲金ヲ免除スルハ其罹災ノ年度ニ限ルヘキ儼ト心得ヘシ此旨相達候事（但從前ノ令達之ニ矛盾スルモノハ廢止ス）

○乙第十六號

四月廿日

府縣（東京府函館縣札幌縣根室縣沖繩縣ヲ除ク）

明治七年（十二月）當省乙第八十四號達地籍離形別紙之通更正候條右ニ準據編製可致此旨相達候事

何 府 縣 地 籍

○國郡區地籍做之但町村地籍ノ編体ハ各府縣ノ便宜タル可シ

○府縣地籍ニハ同郡區町村ノ數國地籍ニハ郡區町村ノ數郡區地籍ニハ町村ノ數ナ其表紙ノ裏面ニ記載ス可シ

○地籍編製ノ年月日モ亦之ヲ表紙ノ裏面ニ記載ス可シ

○表中朱横線ノ上ヲ以テ筆數ハ千位反別ハ町位トス可シ

○用紙ハ美濃紙トス若シ他紙ヲ用ヒルモ美濃紙ノ寸法ヲ準トス可シ且袋綴ニシテ綴

官		官有地第二種																	
小計		官用																	
鐵山	銅山	銀山	金山	府縣廳用地	警視廳用地	會計検査院用地	元老院用地	大審院用地	宮内省用地	司法省用地	工部省用地	農商務省用地	文部省用地	海軍省用地	陸軍省用地	大藏省用地	內務省用地	外務省用地	太政官用地

官有地第一種											地種	目筆畝方	價		
神地											皇宮地				
皇族賜邸地	小計	神社地	村社地	郷社地	府縣社地	國幣社地	別格官塔社地	官塔社地	宗廟地	墓地	御陵地	皇宮地	皇宮附屬地		

目主任捺印ス可シ

〇印ハ朱線

官民有地合計	民有地第二種															
	小計	地	神社				溝渠	堤塘	道路	土取場	砂置場	石捨場	掲示場	火葬場	墓	斃牛馬捨場
			府社	縣社	鄉社	村社										

○乙第十七號

四月二十日

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)築治監

監守懲罰ノ儀ハ自今巡查懲罰ニ準據スヘシ此旨相達候事

○乙第十八號

四月廿一日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年乙第七號達ニ付テハ神佛各管長ヨリ照會ノ節七年放部省第二十九號達ニ準據候ハ勿論徵兵服役ニ該ルヘキト否トノ條項ヲモ調査ノ上可及回答此旨相達候事

○乙第十九號

四月三十日 大藏卿連名

府縣(函館沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)

並木及堤防道路又ハ用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障害等ニヨリ拂下タル代金ハ本年度以降明治十四年内務省乙第四十六號達ノ區分ニヨリ並木拂代金ハ並木植繼費ニ其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ此旨相達候事(但本文ニ抵觸セシ通ハ總テ廢止之儀ト可心得事)

○乙第二十號

五月三日

府縣(東京府ヲ除ク)

傳染病豫防規則第二條ニ掲クル毎週申報ノ儀別紙之通書式相定候條來ル七月一日ヨリ右ニ照準取調無遲滯可差出此旨相達候事

何病患者一週申報

自何月何日 至何月何日

何府縣

發病月日	國名	郡區	町村	職業	男女	氏名	年齡	轉歸月日

表式解釋

此申報ハ患者ノ多寡ニ拘ラス各傳染病毎ニ一表ヲ製シ每週届出ノ分ヲ記スルモノトス

國郡區町村名ハ患者現在ノ國郡區町村名ヲ記スヘシ

職業ハ各本人ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農業主(農コシテ自ラ勞役セサル者)ト自ラ耕作スルモノトナ區別シ又婦女老幼等コシテ職業ナキ者ハ戶主何職業ト記スヘシ

年齡ハ幾年幾ヶ月ト記スヘシ

轉歸月日ハ何月幾日治癒或ハ死亡ト記シ治死ノ届ナキ患者ハ未治ト記スヘシ

持越患者コシテ治癒或ハ死亡ノ届出アルモノハ各欄内朱字ヲ以テ記スヘシ

痘瘡患者申報ハ職業ノ下ニ一規ヲ設ケ未種痘初種痘或ハ再三種痘ト記スヘシ

○乙第廿一號

五月八日

警視廳 府縣 東京府函館沖繩札幌
根室四縣ヲ除ク

明治十五年(七月)第四十一號公達ニ依リ巡查看守給助例實施ノ府縣ハ看守免職歸郷ノ旅費及ヒ滿年賜金ハ給與セサル儀ト可心得此旨相達候事

○乙第廿二號

五月十六日

府縣 東京府函館沖繩札幌
根室ノ四縣ヲ除ク

警部給與及備外國人給與 神奈川長崎ノ 支拂殘金届方並小科目ノ金額流用報告ノ儀本年二月八日番外ヲ以テ相達候コ付テハ自今別紙書式ニ據リ差出ヘシ此旨相達候事

一金

何年度 警部 給與仕拂殘額届
備外國人

警部 給與仕拂殘据置高
備外國人

內譯

金

俸 給
雜 給

右ハ何年度 警部 給與仕拂殘額書面ノ通有之候也
備外國人

「但決算以前ニ於テ翌年度ノ費用ニ支出セントシ」 「印ハ朱字
概算ヲ以テ届出ルキハ其旨本文中ニ詳記スヘシ」

年 月 日

何 府知事 氏名印
縣令

内務卿宛

何年度 警 部 給與小科目流用報告
備外國人

仕拂見込高金

一金

警 部 俸給 (或ハ) 不足
備外國人 雜給

但 雜給 (或ハ) 俸給 (或ハ) ヨリ流用

但何々ノ事由ニヨリ不足ヲ生ス

外

金

豫 算 高

「内金

前年度ヨリ繰越金
雜給 (或ハ) 俸給 (或ハ) ヨリ流用

「是ハ豫算高ノ内此ニ項ノ如キ定額外ニ係ル金員アルハ爰ニ掲出ス
ルモノトス且次項ニ記載スル仕拂見込高ノ内金モ亦コレニ準ス」

「外」

「金

雜給 (或ハ) 俸給 (或ハ) ヨリ流用

豫算金高

一金

警 部 雜給 (或ハ) 俸給 (或ハ) 殘額
備外國人 雜給 (或ハ) 俸給 (或ハ) 俸給 (或ハ) ヨリ流用

内金

全ク殘

但何々ノ事由ニヨリ殘額ヲ生ス

外

金

仕拂見込高

「内金

前年度ヨリ繰越金
俸給 (或ハ) 雜給 (或ハ) ヨリ流用

「外」

「金

俸給 (或ハ) 雜給 (或ハ) ヨリ流用

右ハ何年度警備外國人給與小科目ノ金額書面ノ通流用候ニ付此段及報告候也

年 月 日

何府知事縣冷氏名印

内務卿宛

○乙第廿三號

五月廿四日

府縣

棄兒増減届方ノ儀ニ付テハ追々相違置候儀〔明治四年八月廿六日大藏省達明治九年當省乙第百拾號達〕モ有之候處自今別紙書式ニ照準シ毎年前半、八月後半ハ翌二月限有無トモ可届出此旨相違候事〔但十五年後半ハ既ニ期月經過致シ候ヘ共猶調査ノ都合モ有之ニ付右後半ヨリ本文ノ通相心得來ル八月前半分ト同時ニ可差出事
(別紙書式略ス)

○乙第廿四號

五月廿五日

府縣

明治九年當省乙第七拾二號ヲ以テ相違置候司藥場試驗掛名稱之義自今相廢候條爲心得此旨相違候事

○乙第廿五號

五月廿六日

大藏卿連名

府縣函館沖繩札幌根室四縣ヲ除

郡區長給料十六年度以後國庫ヨリ支辨相成ト雖モ滿年賜金ノ儀ハ打切ニ不及儀ト可心得此旨相違候事

○乙第廿六號

五月廿八日

府縣

陸軍恩給令并海軍退還令ニ據リ恩給ヲ有スル者及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若シハ停止ノ處分ヲ受ケタル者アルハ宣告書寫相添可届出寄留應ニ於テ恩給扶助料ヲ受取ル者アルハ其旨速ニ該管廳ヘモ報告可致此旨相違候事〔但明治八年第四拾八號公達ニヨリ扶助料ヲ受クル者モ本文全權可相心得事

○乙第廿七號

五月三十日

警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)集治監

衛生統計諸表之内監獄在監入患者及ヒ死亡者明細表別紙之通樣式相定候條來ル七月ヨリ毎半年分右ニ照準調製シ上半期分ハ七月三十一日下半期分ハ翌年一月三十一日迄ニ當省ヘ可差出此旨相違候事
(明細表略ス)

○乙第廿八號

六月四日

府縣

衛生統計諸表ノ内出產婚姻死亡表様式並調書式別紙之通、相定候條右ニ照準シ來ル
七月分ヨリ毎月當省へ可差出此旨相違候事（但明治九年當省乙第十三號達中醫師ヨ
リ差出シタル死亡届書ハ當省へ差出ニ不及儀ト可相心得事

解釋

凡例

- 一 甲號ハ郡區役所ニ於テ毎月之ヲ調製シ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ之ニ考案ヲ付シ翌
月中ニ内務省ニ差出スヘキモノトス
- 乙號ハ衛生委員其受持町村ノ一月間ノ事實ヲ第メ翌月十日マテニ郡區役所ニ差出
スヘキモノトス（但甲號ノ内面積及戶口表乙號内面積及戶口調ハ毎年十二月三十
一日ノ現數ヲ調査シ甲號ノ分ハ翌年二月中ニ内務省ニ差出ス可キモノトス乙號ノ
分ハ翌年一月中ニ郡區役所ニ差出スヘキモノトス
- 一 甲號ハ數郡ヲ聯合シテ一郡役所ヲ置クモノト雖モ一郡毎コ一表ヲ製スルモノトス
乙號ハ衛生委員ノ數町村ヲ兼ムルモノモ亦一町村毎コ一葉ヲ製スルモノトス（但

人口一萬以上ノ都市ニ於テハ甲號表式ニ照準シ特別ニ毎月一表ヲ製シ甲號ト共
ニ差出スヘキ

- 一 甲號乙號共ニ其土地現在住居ノ者ニ係ル事實ノミヲ掲クルモノトス故ニ本籍者ト
雖モ他へ出住ノ者ニ係ル事實ハ之ヲ除キ本籍者ニアラサルモ他ヨリ入住スル者ニ
係ル事實ハ之ヲ算入スルモノトス（但陸海軍々衛ニ於テ直ニ埋葬セル死亡者及ヒ
在監人（監獄則第六條ノ者）ノ死亡者ハ算入セサルモノトス
- 一 乙號ハ別ニ解釋ヲ附セス甲號解釋ノ意ニ倣フ可シ

〔甲〕 出產表

- 一 表中某地トアルハ家屋連接シテ人口一千以上一團ノ群居ヲナセル土地及一千以上
ト雖宿驛港浦等コシテ一群居ヲナセル土地ハ其普通ノ稱呼ニ從ヒ一箇所ツ、掲載
スヘキ故ニ一團群居ノ場所ニシテ區ノ名稱ヲ帶ヘル土地ハ本表某地トアル例ニ由
シテ全區ノ合計ノミヲ掲ク可シ他ノ諸表之ニ同シ
- 一 妾服ノ子ハ公生ノ内ニ算入ス可シ

一 死産ハ妊娠後四ヶ月以上ニシテ死胎分娩ノモノヲ算スルモノトス
 一 ニタ子三ツ子及四ツ子等ノ出産ハ其子ノ數ヲ欄内ニ記入シ且表尾ニニタ子三ツ子等ノ別其地名(村落ナレハ村落)及生産死産ノ別ヲ附記ス可シ

〔甲〕 結婚者初再縁及年齢區別表
 一本表ノ事實ハ男女ヲ論セズ其引取方ノ住地ニ於テ算ス可キモノトス對照表之ニ同シ

〔甲〕 死亡者土地區別表
 一 表中病類ノ細目ハ衛生局別ニ之ヲ通報ス可シ
 〔甲〕 死亡者職業區別表
 一 表中職業ノ細目ハ衛生局別ニ之ヲ通報スヘシ

〔甲〕		何(府縣)何國何(郡區)出產表		明治何年何月	
地名	類別	生		死	
		公	私	公	私
男	女	合計	合計	男	女
其他ノ村落	某地	某地	某地	某地	其他ノ村落
計合					

〔甲〕		何(府縣)何國何(郡區)結婚者初再縁及年齢區別表		明治何年何月	
地名	類別	生		死	
		公	私	公	私
男	女	合計	合計	男	女
其他ノ村落	某地	某地	某地	某地	其他ノ村落
計合					

官令

內務省

百六十三

十
九
八
七
六
五
四
三
二
年
年
年
年
年
年
年
年
年

	年	三	十
	年	三	十
	年	四	十
	年	五	十
	年	六	十
	年	七	十
	年	八	十
	年	九	十
	年	十	二
	滿未	年五廿上以年廿	
	滿未	年十三上以年五廿	
	滿未	年五十三上以年十三	
	滿未	年十四上以年五十三	
	滿未	年五十四上以年十四	
	滿未	年十五上以年五十四	
	滿未	年五十五上以年十五	
	滿未	年十六上以年五十五	
	滿未	年五十六上以年十六	
	滿未	年十七上以年五十六	
	以	年十七	
司	合	男	

女

年

齡

何縣何國何郡結婚者年齡對照表 明治何年何月

[甲]

合 計	村 落	其 他 ノ	某 地		某 地		某 地	
			再 初	再 初	再 初	再 初	再 初	再 初
再 初	再 初	再 初	再 初	再 初	再 初	再 初	再 初	再 初
緣 緣	緣 緣	緣 緣	緣 緣	緣 緣	緣 緣	緣 緣	緣 緣	緣 緣
以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	以 上
女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男

官令

(甲) 合計

女男

年 齡	關 係	及 婚 姻 上	男 女 別	第一類	第二類	第三類	第四類	第五類	第六類	第七類	第八類	第九類	第十類	第十一類	第十二類
				傳染病	皮膚病	骨節病	神經病	呼吸器病	消化器病	泌尿生殖器病	外傷	中毒	原因不明	腸胃	內傷
一 年 未 滿	一 年 未 滿	一 年 未 滿	一 年 未 滿	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
二 年 未 滿	二 年 未 滿	二 年 未 滿	二 年 未 滿	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
三 年 未 滿	三 年 未 滿	三 年 未 滿	三 年 未 滿	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
四 年 未 滿	四 年 未 滿	四 年 未 滿	四 年 未 滿	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
合 計				女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
私 扶 室 腸 內 類 第				氣 腳 一	風 驚 內 類 第	中 卒 內 類 第	病 肺 內 類 第								

初生以上	一年未滿	五 月 未 滿	四 月 未 滿	三 月 未 滿	二 月 未 滿	一 月 未 滿	初 生 以 上	女男
		五 月 未 滿	四 月 未 滿	三 月 未 滿	二 月 未 滿	一 月 未 滿	初 生 以 上	女男
一年以上未滿	一年以上未滿	十 一 月 未 滿	十 月 未 滿	九 月 未 滿	八 月 未 滿	七 月 未 滿	六 月 未 滿	女男
		十 一 月 未 滿	十 月 未 滿	九 月 未 滿	八 月 未 滿	七 月 未 滿	六 月 未 滿	女男
一年以上三年未滿	一年以上三年未滿	十 二 月 未 滿	十 一 月 未 滿	十 月 未 滿	九 月 未 滿	八 月 未 滿	七 月 未 滿	女男
		十 二 月 未 滿	十 一 月 未 滿	十 月 未 滿	九 月 未 滿	八 月 未 滿	七 月 未 滿	女男
合計								女男

三	三	三	三	三	三	三	三	三
年	年	年	年	年	年	年	年	年
以	以	以	以	以	以	以	以	以
上	上	上	上	上	上	上	上	上
四	四	四	四	四	四	四	四	四
年	年	年	年	年	年	年	年	年
未	未	未	未	未	未	未	未	未
滿	滿	滿	滿	滿	滿	滿	滿	滿
女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男								

十	十	十	十	十	十	十	十	十
四	四	四	四	四	四	四	四	四
年	年	年	年	年	年	年	年	年
未	未	未	未	未	未	未	未	未
滿	滿	滿	滿	滿	滿	滿	滿	滿
既 未 婚 既 未 婚 既 未 婚								
偶配有 婚 偶配無 偶配有 婚 偶配無 偶配有 婚								
女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男								

採掘 業 スルニ	舟楫 業 スルニ	漁撈 業 スルニ	製造 業 スルニ	商買 業 スルニ	農耕 業 スルニ	醫事 業 スルニ	
						無職 家族 人	本 人
本 人 女男	無職 家族 人 女男	本 人 女男	無職 家族 人 女男	本 人 女男	無職 家族 人 女男	本 人 女男	無職 家族 人 女男

内務省達

百六十七

學術 業 スルニ	公務 業 スルニ	職業	
		無職 家族 人 女男	本 人 女男
		病性傳染類	第一類
		病的養榮及育發類	第二類
		病筋及膚皮類	第三類
		病節關及骨類	第四類
		病器行血類	第五類
		病官五及系神類	第六類
		病器吸呼類	第七類
		病器化消類	第八類
		病器殖生及尿泌類	第九類
		死變性農外類	第十類
		症毒中類	第十一類
		詳不因房類	第十二類
		計合	
		數合齡年	
		私扶室腸內類	第一類
		氣脚	第二類
		風	第三類
		中卒	第四類
		痰肺	第五類

何府何國何郡區死亡者職業區別表 明治何年何月

甲

婚 偶配無 女男

百六十七

府何縣何郡何區坪數及戶口表
明治何年十二月三十一日

合計	本 人 無職家族 (男女)	業 無職家族 (男女)	其他諸 本 人 無職家族 (男女)	業 力役ニ 關スル 本 人 無職家族 (男女)	業	
					無職家族 (女)	無職家族 (男)

何國何郡何區何町何村出產調
明治何年何月

何國何郡何區何町何村	出生			何國何郡何區何町何村	死亡		
	何年何月何日	何人	何性		何年何月何日	何人	何性

官令全集 內務省達 百六十八

何病	何病	何病	何病
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
戶主何業 無職家族	戶主何業 無職家族	戶主何業 無職家族	戶主何業 無職家族
男	女	女	男
未婚	既婚有配偶	既婚有配偶	既婚有配偶
何誰	何誰	何誰	何誰
何ヶ月	何年何ヶ月	何年何ヶ月	何年何ヶ月

何國何郡何村何坪數及戶口調
明治何年十二月三十一日

坪數
現在人口
現在夫婦數
合計
男
女

○乙第二十九號 六月八日 府 縣

戶長印章ノ義ハ八年第百十號達判任官同様タルヘキ旨相達置候處布告達ニヨリ實印ヲ押捺スル分モ自今官印ヲ用ユヘン此旨相達候事

○乙第三十號 六月九日 (大藏卿連名) 府縣(函館札幌根室沖繩四縣ヲ除ク)

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方稅賦課不相成候條此旨相達候事

○乙第三十一號 六月十九日 府 縣

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配(特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着テ配達スル時)ノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月當省乙第十八號ヲ以テ相達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置候條右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ賃錢請求不相成儀ト可心得此旨免賅人共ニ遺漏ナク達シ置ヘン此旨相達候事

此印ハ會テ驛遞局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル局印

第 號
何國
何地郵便局脚夫
何之誰

明治十六
年 月 日
何國
何地
郵便局

○乙第三十二號 六月廿日 警視廳府縣

明治十一年(一月)當省乙第六號達自今廢止候條此旨相達候事

○乙第三十三號

六月廿七日

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)集治監

在監人中傳染病(明治十三年第三十四號布告第一條ニ因ル)患者有之節ハ別紙樣式ニ照準取調本年七月以降每週當省へ申報可致此旨相達候事(但該患者ハ本年五月當省乙第廿七號ヲ以テ相達置候半年表ニモ亦記載スル儀ト心得ヘ) [別紙樣式容ヌ]

○乙第三拾四號

七月十日

府縣(東京府ヲ除ク)

明治八年(十月)本省乙第百三拾三號達廢止候條此旨相達候事

○乙第三拾五號

七月十日

府縣

明治十五年中ニ瘞狀ヲ授與セシ者ノ姓名(共同ノ者ハ會社名或ハ町村名)郡區及其種類(人命救助者篤行者又ハ學校病院等へ金穀物品ノ寄附者墾田等へ出金者及ヒ其金高)一ト廉限リ取調來ル八月三十日マテニ可届出尤出金者ニシテ瘞狀ヲ授與セサルモ同様可心得此旨相達候事(但墾田等ハ屬スル分ハ農商務省へ其他ハ内務省へ届出)

○乙第三拾六號

七月十九日

警視廳府縣(沖繩函館根室札幌ノ四縣ヲ除ク)

本年(二月)第八號公達傳染病ニ罹リタル赤貧者費用支辨之儀ハ十五年度ニ施行候義ト可心得此旨相達候事(但既ニ仕拂濟ノ者ハ此限ニアラス)

○乙第三拾七號

七月十九日

府縣

暴風警報信號柱之義ハ暴風警報上必要之者ニ候得共其建設及取扱方等區々ニ出候テハ不都合ニ付各地方ニ於テ取設候節ハ除メ當省地理局へ協議可致此旨相達候事

○乙第三拾八號

九月廿七日

集治監樺戸空知三池ノ三監ヲ除ク(警視廳府縣(東京府及沖繩函館札幌根室縣ノ五縣ヲ除ク))

國庫下付金及地方稅受ケ入レ金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大藏兩省達乙第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣拂代金及看守尉俸金等納入方ノ義國庫地方ノ區分計算ニ據ラス十五年度以降集治監ニ生セシモノハ總テ國庫へ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅へ收入セシメ候條此旨相達候事

○乙第三十九號

十月十二日

府縣(函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

明治七年四月乙第廿八號達取消候條地方稅經濟ニ引繼カサレモノハ此際可成備荒儲蓄ノ倉庫ニ充用候様可致此旨相達候事(但存廢ノ見込取調更ニ可伺出候ト心得可)

○乙第四拾號 十月十二日 警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)

明治十三年(八月)當省乙第卅五號ヲ以警部及備外國人ニ屬スル諸費請求書式相達候處在府縣獄囚徒費之義モ右書式ニ準據何レモ毎期前月十日迄ニ請求書可差出此旨更ニ相達候事

○乙第四拾一號 十月廿五日 警視廳府縣

本年(八月)太政官第三拾貳號ヲ以テ外國人傭入及解傭方等ノ義達相成候ニ付テハ傭入傭繼又ハ其給料等ヲ増加セントスルトハ其金額事由ヲ詳記シ主管ノ者ニ具申可致且解傭又ハ給料ヲ減省スルモノハ其都度届出ヘシ此旨相達候事

○乙第四拾貳號 十月三十一日 府 縣

醫師免許規則來十七年一月一日ヨリ施行ニ付十年當省乙第七拾六號達ニ依リ醫術開業免狀相受度者ハ本年十二月二十日限ニ可爲願出此旨相達候事

○乙第四拾三號 十一月七日 府 縣

戶籍表式左之通相定候條來ル十七年ヨリ毎年一月一日ノ現在ヲ以テ取調三月限リ無遲滯可差出此旨相達候事(但表式用紙ハ戶籍局ヨリ別ニ送付スヘシ)

第壹

族 籍 及 戶 數		明 治 年 一 月 一 日 調		府 縣 名	
國 郡 區 名	種 族	戶 主	家 族	戶 主	家 族
男	平	男	平	男	平
女	民	女	民	女	民
		兒	無 籍 任 監	兒	無 籍 任 監
		總	計	總	計
		戶	數	戶	數

第貳

年 齡		明 治 年 一 月 一 日 調		府 縣 名	
國 郡 區 名	種 族	戶 主	家 族	戶 主	家 族
男	平	男	平	男	平
女	民	女	民	女	民
		兒	無 籍 任 監	兒	無 籍 任 監
		總	計	總	計
		戶	數	戶	數

內務省達 〇百七十一

				前一周年出生死亡及就籍除籍及結婚離婚		明治年一月一日調府縣名	
國	郡區	出生及就籍人		死亡及除籍人		結婚離婚	計合女男
		出	生	死	除籍		
		男女合計	男女合計	男女合計	男女合計		

前一周年出生死亡及就籍除籍及結婚離婚 明治年一月一日調府縣名

就籍ハ無籍者新々ニ籍ニ就クテ云フ

除籍ハ逃亡失踪八十歳ヲ過ケタルヲ云フ

結婚ハ其入籍ノ方ニ於テ離婚ハ其送籍ノ方ニ於テ算スヘシ

第四

出寄留送籍逃亡失踪及復歸轉去 明治年一月一日調府縣名

				前年中出入		現在	
國	郡區	前年中		出入		計	總
		出	入	出	入		
		男女合計	男女合計	男女合計	男女合計		

第五

外國ニ係リタル送籍ハ表尾ニ其郡區名男女人員ヲ附記スヘシ

入寄留入籍及復歸 明治年一月一日調府縣名

外國ニ係リタル入籍ハ表尾ニ其郡區名男女人員ヲ附記スヘシ

官令全覽

內務省通

百七十二

○乙第四拾四號

十一月九日

府縣(沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

客年(一月)當省乙第八號達中左ノ通改正候條此旨相達候事

國庫下渡金ヲ算出スル)ノ下(場合ニ於テハ警察費(併算候)ノ十三字ヲ削除ス

○乙第四拾五號

十一月十六日

府縣

明治九年當省乙第八拾壹號達ヘ左ノ但書追加候條此旨相達候事

乙第八拾一號但書

但官林内ニ在ル舊道舊川敷地ハ此限ニアラス

○乙第四拾六號

十一月十七日

府縣

本年第三拾五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業証書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事(但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

一三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等)ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ

一生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ

一四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試験法ノ完備スルモノ

一生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ

一器械標本ノ具備スルモノ

○乙第四拾七號

十二月五日

府縣

明治十年當省乙第七拾六號達以後奉職セシ者ト雖モ該達ニ比準スヘキ者ハ特別ヲ以テ志願ニ依リ直ニ醫術開業免狀可致授與候條本年十二月限り履歷書相添可爲願出此旨相達候事

○乙第四拾八號

十二月廿五日

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)集治監

明治十四年(十二月)當省乙第六拾五號達監獄經理諸表標本別紙ノ通更定候條來ル明治十七年一月以降ハ右更定標本ニ倣ヒ製表スヘシ此旨相達候事